

令和4年度



地域貢献活動報告書

.....



専門職向け事業

● 県立病院・県内病院連携事業



心臓血管センター

各病院が抱える課題解決に向け組織レベルで展開



大学



がんセンター



小児医療センター



精神医療センター

共通テーマ

- 4病院共通看護職員のキャリア開発の現状と課題
- 共同研究を通じた人材育成と大学への知の還元
- 備品の長期貸出
- 県内病院への看護教員派遣
「専門看護師・認定看護師による相談支援」

● 看護学教員養成課程



講義の模擬授業



演習の模擬授業

- 県内の看護学教員を目指す看護職者や病院などで学生や後輩看護師教育に携わる看護職者への教育機会の提供
- 大学の教育理念に基づく独自のカリキュラム(厚労省認可)
- 大学看護学部看護基礎教育と連動する本学ならではの教育展開

県民向け事業

● 教育普及事業

- 県民向けの「公開講座」「公開授業」「出前講座」により本学の教育と研究成果を県民に直接的に還元



公開講座の様子



出前講座の様子

● 放射線測定協力事業

- 放射線測定に関する助言・研修会
- 測定値の解釈・評価・公開
- 対策の立案・実施に関する助言
「県民の安全安心の提供」



研修会の様子



放射線測定の様子

● 地域連携推進事業

- 大学や本センターの活動を広く県民に周知
- 群馬県健康福祉部や他大学との連携、ボランティア活動により、県民の保健医療福祉に寄与する地域に根ざした取り組み



- リーフレットの作成
- News Letterの発行(年3回)
- 地域貢献活動報告書の発行



- ボランティア活動(地域および病院での活動)

- 県内他大学との協力・連携事業
- 一般住民・団体を対象とした講演・研修
- 桂萱地区・芳賀地区住民との協働
- 地域に開かれた図書館

県民 専

地域

● 目指す地域

看護学分野

- 看護学教員養成課程
- 看護職研究支援事業
- 看護師特定行為研修課程
- 県立病院・県内病院連携事業
- 健康福祉政策事業

県立の保健医療系大学として研究成果などを、県民をば者、行政などに対し還元する療・福祉の向上に寄与する

地域連携センター2022

ともに発展することを目指して

● 看護師特定行為研修課程

- 指定研修機関として、群馬県内の慢性期・在宅医療等のニーズに対応し、手順書により一定の診療の補助ができる看護師を養成する機会の提供
- 授業ではeラーニングを導入、働きながら学修できる環境を準備



模擬患者様への医療面接場面

● 放射線教育・研修事業



放射線治療講習会



MRI技術講習会

- 放射線治療講習会
- 診療放射線技師CT・MRI研究会
- 診療放射線技師継続教育等
- 群馬県診療放射線技師会講習支援
- 国際化研究支援
- 診療放射線技師核医学研究会

● 看護職研究支援事業 「看護研究セミナー」と「看護研究個別支援」



講義: 研究計画書の作成



講義: 文献検索と文献検討



講義: 研究における倫理

看護研究個別支援

- 「看護研究セミナー」と「看護研究個別支援」による看護職者への研究活動の支援
- テーマに合わせた担当教員の決定、およそ10か月にわたる個別支援

門 行政

連携

貢献の方向性

診療放射線学分野

- 放射線教育・研修事業
- 放射線測定協力事業
- 地域連携推進事業
- 健康寿命延伸プロジェクト
- 教育普及事業

て、大学が所有する知的財産
 じめ広く関係機関、医療従事
 ことにより、県民の保健・医

行政との協働事業

● 健康寿命延伸プロジェクト

群馬県健康福祉部
 健康長寿社会づくり推進課

群馬県健康福祉部 × 県民健康科学大学

- 地域の実態把握・課題分析・健康課題の明確化
- 調査研究・実践プログラムの開発・人材育成

科学的根拠に基づいた健康づくり対策の展開

- 1 群馬県健康福祉部との共催による「元気に動こう・歩こうプロジェクト」の推進
- 2 市町村との共催による「健康寿命延伸シンポジウム」の開催
- 3 小規模町村支援事業(榛東村の健康づくり推進に関する包括協定)
- 4 健康寿命延伸プラットフォーム事業(館林市)への協力
- 5 健康増進効果検証事業(群馬県立ゆうあいピック記念温水プール)



など

● 健康福祉政策事業

群馬県
 健康福祉部
 生活こども部

情報交換
 マッチング

大学
 看護学部
 診療放射線学部

- 認知症サポーター・ステップアップ講座教材の普及活動
- 子育て講座プログラム政策・普及への協力
- 「若い世代の食育推進協議会」への参加
- 群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定



令和4年度地域貢献活動報告書の発刊に寄せて

本学の地域連携センターは、平成24年に大学の「教育・研究」と並ぶ重要なミッションである「地域貢献」を組織的に取り組む拠点として開設され、10年以上が経過しました。県民の健康増進、保健・医療・福祉環境の質の向上を目的に、県民をはじめ教育機関・医療機関・医療従事者・行政等との連携を深めながら多様な事業を展開しております。

関係者の皆様には、地域連携センターの事業推進のために、ご支援とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見通せない状況ではありましたが、ICTの活用や感染対策を講じた研修会等、工夫を凝らしながら事業の推進を図り、以下の10事業を展開致しました。

「看護学教員養成課程」は、厚生労働省による専任教員養成講習会の認定を受け、看護学教育に携わる人材育成を目的に本学独自のカリキュラムを提供し、令和4年度は10名が修了しました。

「看護師特定行為研修課程」は、県内の慢性期・在宅医療等のニーズに対応し厚生労働大臣による指定研修機関の指定を受け、チーム医療のキーパーソンとして貢献できる人材を養成し、第3期生5名が修了しました。

「県立病院・県内病院連携事業」は、県立・県内病院の看護及び診療放射線部門が抱える課題解決に向け、共通もしくは個別の課題に基づき、教員と専門職者の協働により取り組みました。また、次年度に向けて県の関連機関等と打合せを行いました。

「看護職研究支援事業」は、県内の看護職者を対象にオンデマンド配信による看護研究セミナーを3回実施し、継続を含めた計6グループを対象に個別支援を行いました。

「放射線教育・研修事業」は、がんプロフェッショナルの養成や診療放射線技師の画像診断検査・撮像技術の向上を目的としたWEB講演会や研究会の実施、MRIを用いた共同研究、群馬県診療放射線技師会が開催する研修会への講師派遣、国際学会発表や核医学に関わるセミナー等を行いました。

「放射線測定協力事業」は、要請のあった地域の放射線量測定を実施し、測定結果に基づく評価を行い、県民の安全安心につながる情報提供を行いました。

「教育普及事業」は、第1回公開講座を対面式開催、第2回をオンデマンド配信により実施しました。また、出前講座数はのべ32回、のべ受講者数は744名でした。

「地域連携推進事業」は、Newsletterや地域貢献活動報告書の発行、センター事業リーフレットの配布により県民や関係機関に向けて情報発信を行いました。

「健康福祉政策事業」は、認知症サポーター養成支援として研修教材を大学ホームページに公開しました。また、県民の健康福祉施策については、県の関連機関と協働し、子育て講座のプログラムの検討や健康教育の実施、感染症・がん対策課との検討を行いました。

「健康寿命延伸プロジェクト」は、県の健康福祉及び県内の市町村と協働し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも榛東村に対する小規模町村支援事業を行いました。その他、ぐんま元気エクステンションセミナーとして、計12件のセミナーを開催しました。

以上のように、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止せざるを得ない事業もありましたが、1年間の活動報告書を発行できる運びとなりました。

今後は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行したことに伴い、感染対策を講じつつコロナ禍でのICTを活用した事業展開の実績をふまえ、さらなるセンター事業の推進・発展に向けて尽力して参ります。

末筆ではございますが、関係者の皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年10月

地域連携センター長 廣 瀬 規代美

目次

I 地域連携センターの活動

| | |
|----------------------------|----|
| 1. 群馬県立県民健康科学大学 地域連携センター概要 | |
| 1) 設置概要 | 2 |
| 2) 事業概要 | 3 |
| 2. 事業報告 | |
| 1) 看護学教員養成課程 | 4 |
| 2) 看護師特定行為研修課程 | 6 |
| 3) 県立病院・県内病院連携事業 | 8 |
| 4) 看護職研究支援事業 | 10 |
| 5) 放射線教育・研修事業 | 12 |
| ①放射線治療講習会 | |
| ②診療放射線技師CT・MRI研究会事業 | |
| ③診療放射線技師継続教育等事業 | |
| ④群馬県診療放射線技師会講習支援事業 | |
| ⑤国際化研究支援事業 | |
| ⑥診療放射線技師核医学研究会事業 | |
| 6) 放射線測定協力事業 | 21 |
| 7) 教育普及事業 | 22 |
| 8) 地域連携推進事業 | 24 |
| 9) 健康福祉政策事業 | 25 |
| 10) 健康寿命延伸プロジェクト | 27 |
| 11) ピックアップ | 29 |
| 12) Newsletter | 30 |

II その他の地域貢献活動

| | |
|-----------------------|----|
| 1. 学会活動 | 38 |
| 2. 一般住民・団体を対象とした講演・研修 | 45 |
| 3. 保健医療専門職を対象とした講演・研修 | 46 |
| 4. 行政組織での活動 | 48 |
| 5. 任意団体での活動 | 49 |
| 6. 他教育機関非常勤講師 | 51 |
| 7. 報道記事 | 54 |

III 関連規程

| | |
|--|----|
| ・群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程 | 56 |
| ・群馬県立県民健康科学大学地域連携センター運営会議 及び地域連携センター運営委員会設置運営細則 | 57 |

1) 設置概要

本学はこれまで、看護師、保健師及び診療放射線技師の養成校として、臨床現場で活躍できる多くの医療専門職を育成することで、地域の医療水準及び県民の健康水準の向上に貢献してきました。そのような中、平成19年の学校教育法の改正等により、「社会貢献」が「教育」、「研究」に次ぐ大学の第3の役割に位置づけられたことを踏まえ、本学においても、これまで以上に地域貢献を推進するため、平成24年4月に大学附属機関として、地域連携センターを設置しました。

本学地域連携センターは、県立の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果等を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民福祉の向上に寄与することを目的として、地域貢献に関する各種事業に取り組みます。

■地域連携センター運営会議構成員一覧（令和4年4月1日時点）

| 区 分 | | 氏 名 |
|--------------------|-------------------------------|---------|
| 委員長 | 地域連携センター長、健康福祉政策事業 | 行 田 智 子 |
| 副委員長 | 地域連携副センター長、健康寿命延伸プロジェクト | 大 澤 真奈美 |
| | 地域連携副センター長、国際化研究支援事業 | 小 倉 敏 裕 |
| 委 員 | 看護学部長 | 横 山 京 子 |
| | 診療放射線学部長 | 下瀬川 正 幸 |
| | 看護学教員養成課程 | 高 橋 裕 子 |
| | 看護師特定行為研修課程 | 飯 田 苗 恵 |
| | 県立病院・県内病院連携事業（看護学部） | 廣 瀬 規代美 |
| | 県立病院・県内病院連携事業（診療放射線学部） | 上 原 真 澄 |
| | 看護職研究支援事業 | 上 山 真 美 |
| | 放射線教育・研修事業 放射線治療講習会事業 | 佐々木 浩 二 |
| | 放射線教育・研修事業 診療放射線技師CT・MRI研究会事業 | 林 則 夫 |
| | 放射線教育・研修事業 診療放射線技師継続教育等事業 | 高 橋 哲 彦 |
| | 放射線教育・研修事業 群馬県診療放射線技師会講習支援事業 | 五十嵐 博 |
| | 放射線教育・研修事業 診療放射線技師核医学研究会事業 | 大 崎 洋 充 |
| | 放射線測定協力事業 | 杉 野 雅 人 |
| | 教育普及事業 | 青 木 武 生 |
| | 地域連携推進事業 | 狩 野 太 郎 |
| | 事務局 | 松 本 万理子 |
| | (県健康福祉部健康福祉課) | 島 田 和 之 |
| | (学外有識者：県看護協会) | 荻 原 京 子 |
| (学外有識者：県診療放射線技師会) | 後 閑 隆 之 | |
| (学外有識者：県医師会) | 瀬 古 聖 一 | |
| (学外有識者：県立心臓血管センター) | 内 藤 滋 人 | |

2) 事業概要

| 事業名 | 事業概要 |
|----------------------------|--|
| 1 看護学教員養成課程 P.4～5 | 看護師養成教育機関の看護学教員や臨床現場で教育的役割を担う教育担当者を対象とし、看護基礎教育に携わる教育者としての役割を遂行するために必要な知識・技術を教授する。大学主体で看護基礎教育に携わる教育者の教育実践能力の維持向上を図る。 |
| 2 看護師特定行為研修課程 P.6～7 | 看護師特定行為研修の研修機関として指定を受け、慢性期・在宅医療等に貢献できる特定行為研修修了者を養成するための研修の機会を提供する。 |
| 3 県立病院・県内病院連携事業 P.8～9 | 県病院局総務課、県立4病院（心臓血管センター、がんセンター、精神医療センター、小児医療センター）と本学で、4病院が抱える課題、たとえば人材育成等について、その解決に向けた連携事業を継続して、組織レベルで展開する。 |
| 4 看護職研究支援事業 P.10～11 | 県内の病院、行政機関、健診機関、訪問看護ステーション、福祉施設、事業所等に所属する看護師、保健師、助産師を対象に、看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を習得するための看護研究セミナーと、研究テーマに沿って看護研究の一連の過程を本学教員が支援する看護研究個別支援を実施し、県内の看護職者の研究活動を支援することで、研究能力の向上と県民の健康の保持・増進に寄与する研究成果の産出を図る。 |
| 5 放射線教育・研修事業 P.12～20 | <p>(1) 放射線治療講習会 がんプロフェッショナル基盤養成プランの一つとして、筑波大学を中心に取り組んでいる「関東がん専門医療人養成拠点」事業に沿って、放射線治療教育プログラムのセミナーを開催する。これを通じて、治療技術の普及や向上とともに、がんの早期発見に繋がる検診への関心を高める。</p> <p>(2) 診療放射線技師CT・MRI研究会事業 県内の診療放射線技師の臨床研究支援事業として、臨床現場における画像診断検査の向上・発展を目的とする研究の推進と発表に必要な方法を討論する研究会を実施する。</p> <p>(3) 診療放射線技師継続教育等事業 県内診療放射線技師の撮像技術向上事業として、「MRI専門技術者」資格の取得を視野に入れた講習会等を開催するほか、MRIを用いた共同研究と研修会を実施する。これらにより、診療放射線技師が最新の知識・技術を習得できるようにし、がん等の疾病の早期発見の機会の増加を図る。</p> <p>(4) 群馬県診療放射線技師会講習支援事業 診療放射線技師の業務拡大に伴い、群馬県診療放射線技師会で行われる注腸造影検査および静脈注射（針刺しを除く）に関する講習会へ講師の派遣を行い、地域の診療放射線技師の技術向上に貢献する。</p> <p>(5) 国際化研究支援事業 県内診療放射線技師の研究支援事業として、国際学会発表を目的とした講習会等を実施する。</p> <p>(6) 診療放射線技師核医学研究会事業 県内診療放射線技師および学生を対象に、核医学検査に関する講習会を開催する。また、技術支援を通して核医学の臨床研究や多施設研究の推進を行う。</p> |
| 6 放射線測定協力事業 P.21 | 放射線測定に関する助言・指導、測定値の解釈・評価、対策の立案・実施に関する助言等を通じて、県民に安全・安心の提供を図る。 |
| 7 教育普及事業 P.22～23 | 県民向けの公開講座、出前講座及び公開授業等を行い、地域貢献活動を積極的に行う。 |
| 8 地域連携推進事業 P.24 | 本センターの活動を広く県民に周知するために、地域連携センターNews letter及び地域貢献活動報告書を発行する。また、学生ボランティア活動の支援体制の充実に取り組む。 |
| 9 健康福祉政策事業 P.25～26 | 健康福祉政策事業では、群馬県健康福祉部との情報交換会継続と、マッチングした事業の展開を図る。 |
| 10 健康寿命延伸プロジェクト P.27～28 | 群馬県健康福祉部との協働による平成28年度政策プレゼン「健康寿命延伸プロジェクトⅡーぐんまエクステンションプラン」を展開するため、群馬県民の健康寿命延伸を目指した事業に取り組む。 |

看護学教員養成課程

担当者／看護学部 ◎高橋（裕）講師、松田教授、山下教授、服部准教授、河内講師

1 事業目的・内容

県内および県外の看護師養成教育機関の看護学教員や臨床現場で教育的役割を担う教育担当者を対象に、看護基礎教育に携わる教育者としての役割を遂行するために必要な知識及び技術を教授する。

本課程は、群馬県委託契約に基づき、大学の企画・運営により看護学教育に携わる人材の育成に関わる事業として取り組んでいる。また、看護学教員の教育実践能力の維持向上に向け、継続的に学び続けられるような体制づくりに努める。

2 実施結果

(1) 課程生11名へのカリキュラム、授業計画に沿った授業の実施

ア 実施授業科目 20科目（基礎分野6科目、専門科目14科目）

イ 総カリキュラム時間数：750時間

ウ 教育実習

看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）・看護学教育授業展開論Ⅳ（実習）

実施期間：令和4年10月17日（月）～11月18日（金）

本学、および県内看護師養成教育機関において実施

(2) 公開授業

看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）：令和4年7月27日・28日（参加者15名）

看護学教育授業展開論Ⅲ（演習）：令和5年2月3日（参加者12名）

(3) 令和4年度看護学教員養成課程修了式

日程：令和5年3月24日（金） 修了生：10名（退学者1名）

修了後は、看護師養成教育機関の教員または病院の教育担当者として勤務

(4) 厚生労働省「教育訓練給付金制度（一般教育訓練）」指定講座認定

→ 該当者：2名

(5) 2023年度看護学教員養成課程学生募集（募集定員20名）

ア 看護学教員養成課程説明会の実施 7月30日（土）（参加者10名）

個別説明会（1月6日～26日）の案内、HP掲載

イ 本学ホームページ、上毛新聞、FM群馬に課程生募集の案内掲載

ウ 看護学教員養成課程の紹介パンフレットを作成し、関東甲信越・東北地方の3年課程看護師養成教育機関への課程生募集の案内送付

エ 群馬県看護学会にて、県内施設の活動紹介として展示、学生募集の説明実施

オ 入学者選抜試験：第1次募集 令和4年12月15日（木）

→出願者：8名 合格者：8名 入学手続者：7名

第2次募集 令和5年2月16日（木）

→出願者：1名 合格者：1名 入学手続者：1名

3 事業成果・効果

本課程は、大学の学習環境を最大限に活用し、学部教育との連携を図りながら授業を提供している。課程生は、本課程独自のカリキュラムに基づき、学習した知識と教育実践とのつながりを持ちながら、1年間学習することを通して、教育実践に必要な能力を修得している。今年度は、昨年度の課題解決に向けて授業開始時期を4月としてカリキュラムの順序性を再検討し、時間割を作成、授業を実施した。これにより課程生の自己学習時間の確保ができ、目標達成につながった。修了後は、県内および県外の看護専門学校教員としての活躍が期待されている。これらを通し、群馬県の看護基礎教育の質向上に貢献している。

4 事業の課題及び改善の方向性

入学者確保に向けて、学生募集活動を強化しているが、コロナ禍の影響や県内看護専門学校の教員不足などにより、欠員が生じている。今年度は、課程の説明会の参加者が昨年より多かったものの、受験者の増加にはつながらなかった。次年度は、説明会の開催方法の改善やHP内容の充実を図るなど、本課程の理解につながる活動を強化し、受験者の増加につながる募集活動を継続していく。



看護師特定行為研修課程

担当者／看護学部 ◎飯田教授、行田教授、横山教授、廣瀬教授、清水准教授、金谷准教授、
佐藤講師、佐々木講師、田村助教
診療放射線学部 瀬川教授

1 事業目的・内容

群馬県内の慢性期・在宅医療等のニーズに対応し、チーム医療のキーパーソンとして貢献できる特定行為研修修了者を養成するための研修の機会を提供する。

2 実施結果

(1) 研修の実施：受講生5名（うち訪問看護師4名）

- ア 共通科目 7科目（6科目eラーニング、1科目学内実習）
- イ 区分別科目「呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連：気管カニューレの交換」「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正」の2区分3行為
- ウ 学内演習・実習等
 - 学内Ⅰ：4月 オリエンテーション、放送大学よりeラーニングの実演等
 - 学内Ⅱ：5月 ICT研修の継続支援、進捗の確認、レポート添削
 - 学内Ⅲ：8・9月（4日間）「特定行為共通科目統合実習」
 - 学内Ⅳ・Ⅴ：9・10月 区分別科目の学内演習・技術練習
 - 学内Ⅵ：10月 区分別科目の実技試験（OSCE）
 - 学内Ⅶ：10月 区分別科目の筆記試験
- エ 臨地実習
 - 11月～2月（16週）区分別科目の臨地実習
 - 協力施設および指導者との実習調整、提出課題の添削指導、施設訪問による対面指導

(2) 研修運営委員会

開催回数：定期開催8回、臨時（持ち回り審議）3回

(3) 研修管理委員会

開催回数：2回（第1回 書面会議：7月、第2回オンライン会議：3月）

(4) 令和5年度入学試験

一般：第一次9月合格者2名、第二次12月合格者2名 計4名（うち訪問看護師3名）
区分別科目追加履修：12月2名（「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」）

(5) 課程生の所属施設看護管理者を対象とした会議

研修修了者の活動環境の整備についての情報交換：9月

(6) 届出、申請または報告等に関する調整・手続

- ア 新年度の教育内容の改善及び人事異動等に伴う届出：4月
- イ 修了した看護師報告：4月（4名）
- ウ 前年度の年次報告：6月
- エ 新規の協力施設の届出：11月（6施設）

(7) フォローアップ研修の企画・開催

- 第1回：8月 症例検討
- 第2回：10月 ポータブルエコーの看護領域での活用、特定行為に係る診療報酬について

第3回：3月 今年度の活動報告及び次年度の予定

(8) 厚生労働省 厚生労働省「教育訓練給付金制度」指定講座の申請

令和5年度の教育訓練給付金制度（専門実践教育訓練）の講座指定を受けるため、本課程を履修証明プログラムの法令に沿って整備し、文部科学大臣が認定する「職業実践力育成プログラム」(BP)に申請した。
→本課程の共通科目は、協力施設の放送大学による単位認定であることから、対象とならないことが判明し取り下げた。一般教育訓練給付金指定講座は継続する。

3 事業成果・効果

本課程は3期生を迎え、5名の課程生（うち訪問看護師4名）が受講した。学内演習・実習では、感染防止に努めながら、昨年度と同様に充実した学修を展開できた。本学は併設の医療機関を有していないため、臨地実習は、協力施設の協力を得て実施した。感染症の拡大と時期が重なり、課程生自身、指導医、院内スタッフが忙しく、症例確保が大変困難であったが、関係する皆様のご理解とご協力を得られ、期間中に症例確保ができ、実習を終了できた。本課程の第3期生5名が研修管理委員会にて修了認定されたこと、今年度は訪問看護師4名が修了できたことから群馬県内の慢性期・在宅医療等のニーズに貢献できたと考える。

1・2期生へのフォローアップ研修は、第1回を8月の「症例検討」、第2回を10月の「ポータブルエコーの看護領域での活用、特定行為に係る診療報酬について」、第3回を3月の学習報告・発表会の第2部での「今年度の活動報告及び次年度の予定」とした。修了生も増え、フォローアップ研修の規模を拡大しつつ継続できていると考える。

また、今年度は、令和5年度より研修を開始する特定行為区分「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」について、区分別科目追加履修の募集要項を整え入学試験を実施した。本課程修了生が「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の追加履修を希望し再入学となった。このことから群馬県内の慢性期・在宅医療等のニーズに対応した継続教育の場を提供できていると考える。

4 事業の課題及び改善の方向性

事業の課題及び改善の方向性は次の4点である。①看護師による活用が注目されているポケットエコーを購入していただき、今年度フォローアップ研修に組み入れた。令和5年度の授業に向けた準備を行う。②令和5年度から開始する「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の授業準備を行う。③教育訓練給付金制度（特定一般教育訓練）の講座指定を受ける準備を行う。④群馬県健康福祉部医務課との情報交換、連携による県内の特定行為研修の推進について検討する。



県立病院・県内病院連携事業

担当者／看護学部 ◎廣瀬教授、富永講師、和田助教
診療放射線学部 ◎上原教授、渡部准教授

1 事業目的・内容

4病院が抱える課題について、県立4病院（心臓血管センター、がんセンター、精神医療センター、小児医療センター）と県民健康科学大学とが協働して、その解決に向けた連携事業を継続して展開する。

2 実施結果

<看護部門>

(1) 共通課題

ア 令和4年度新人看護師の教育体制の整備－コロナ禍で学生時代を過ごした新人看護師の傾向と臨床現場の教育支援－

臨床側の課題の分析と文献検討による新人看護師の理解に加え、看護基礎教育を担う大学側の現状をふまえ教育支援体制を整備し、実施・評価を行った。

イ 看護管理コース研修における教育内容の精選新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、各病院の継続課題とした。

(2) 県立4病院連携事業会議の開催

ア 日 時：令和4年9月26日（月）16:00～17:00／Zoomにて実施

令和5年2月6日（月）15:00～16:30／Zoom（ハイブリッド型）にて実施

イ 出席者：群馬県病院局課長・看護人材支援専門官・職員係長、県立4病院看護部長・副看護部長、教育担当看護師長、看護学部長、地域連携センター長、事業責任者、事業担当者 計20名

ウ 内容

・コロナ禍で学生時代を過ごした新人看護師の教育体制整備を目的として、新人看護師の臨床現場の現状と教育支援の実施と評価、大学の教育の現状等の情報共有・意見交換を実施した。

(3) 小児医療センター

ア テーマ：先輩看護職全員による新人看護職教育への参加

イ 講 師：富永明子講師

ウ 実施状況：実施なし

<診療放射線部門>

県立病院へのニーズ調査、大学教員とのマッチング及び来年度の実施に向けた打合せ会議等を適宜実施する予定であったが、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり各病院からの具体的な要望がなかったため実施に至らなかった。

県内病院向け事業として備品の貸出事業については、画像工学用ファントムの貸出を2件実施した。

3 事業成果・効果

<看護部門>

共通課題である「コロナ禍に学生時代を過ごした新人看護師の教育体制の整備」をテーマに教育支援体制を整備し、実施・評価を行った結果、継続的な教育支援の必要性に加え、指導者の教育支援も課題とされた。県立4病院連携事業会議による臨床現場と看護基礎教育双方の現状と課題の共有は、新人看護師の教育支援内容の具体化を可能とし教育体制の強化に寄与できたと考える。また、「看護管理コース研修の教育内容の精選」については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により継続課題とした。

<診療放射線部門>

県内民間病院等への備品の貸し出しについては、今年度は画像工学用ファントムの貸し出しが2件あった。新型コロナウイルス感染症の影響も残る中、学会等の活動が再開され徐々に件数が回復してきている。

4 事業の課題及び改善の方向性

<看護部門>

共通事業として、4病院共通ラダーに基づき「看護管理コース研修の教育内容の充実を図る」ことを継続課題として、具体的内容の精選に取り組む予定である。また、「コロナ禍における新人看護師の教育体制の整備の必要性」については、次年度も継続課題として実施予定である。引き続き、新人看護師を対象とした教育支援の実施・評価に基づき、臨床側・大学側で情報共有・意見交換を継続し、教育体制の充実を図るべく協力支援を行っていききたい。

<診療放射線部門>

県立病院との共通事業実施に向けて引き続き県立病院と密に連絡を取り合いながら事業を進めていく必要がある。また、備品貸し出しについては、県内民間病院への適応拡大を実施しているが、コロナ禍で需要は低調である。令和4年度に引き続き保有備品リストの構築を実施していく。

看護職研究支援事業

担当者／看護学部 ◎上山准教授、橋本准教授、浅見講師、戸谷講師、福島講師、丸澤講師、久保田助教

1 事業目的・内容

県内の医療機関、行政機関、訪問看護事業所、福祉施設等に所属する看護師、保健師、助産師を対象に、看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を修得するための「看護研究セミナー」を実施する。全セミナーを受講した者に対して研究計画を募集、研究の一連の過程を本学教員が支援する「看護研究個別支援」を実施し、県民の健康の保持・増進を担う県内看護職者の研究活動および看護実践上の課題解決等を支援する。

2 実施結果

(1) 看護研究セミナー *新型コロナウイルス感染状況を鑑みハイブリッド開催とした。

- ア 第1回講義「看護研究計画書の作成」(浅見講師)
- イ 第2回講義「看護研究における倫理と手続き」(橋本講師)
- ウ 第3回講義「看護研究のための文献検索と文献検討」(佐藤講師)

(2) 看護研究個別支援 (新規)

4グループに対して、支援担当教員各1名～2名を配置して支援を行った。

(3) 看護研究個別支援 (継続)

令和3年度に個別支援を行ったグループの中で、継続支援の希望があった2グループに対して、各支援教員が令和4年度も継続して支援を行った。

(4) 研究成果報告会

新型コロナウイルス感染拡大のため、Web (YouTube オンデマンド) 開催とした。

3 事業成果・効果

(1) 看護研究セミナー

第1回～3回のセミナーは、5月10日～6月6日の間、YouTube オンデマンドにて開催した。また、第3回のセミナーは、希望者のみ対面で開催した。

参加申込者の実人数は74名、施設数は16施設で、県内6保健医療圏の医療圏の施設から看護職の参加があった。施設種類別の申込者は、病院が14施設72名、市町村及び保育園が各1名であった。今年度は、申込施設数が増加した。セミナー別のYouTube視聴回数は、第1回168回、第2回139回、第3回95回であり、複数回視聴されていることがわかった。対面の参加者は5名であり、満足度は高かった。このような状況の中でも、参加申込者数は例年より多く、県内の看護職者の研究活動支援につながっていると考える。受講後のアンケート結果では、セミナーを活用できそうかの問いに「とてもそう思う」「そう思う」の回答がほとんどであり、県内の看護職の研究活動の支援ニーズに合致した効果的な内容であったと考える。

(2) 看護研究個別支援

看護研究セミナーの全てを受講した者の中で、研究課題を持ち、個別支援を希望する個人及び小グループを再度募集し、申請のあった4グループの研究テーマと指導教員とのマッチングを行い、4グループに対して個別支援を行った。申請のあった施設は3件で、全て県内の病院であった。支援教員の個別指導のもと、各施設に就業する看護職者が各々の施設での看護実践の中で抱える問題に着目した研究課題を明確にし、7月から研究活動を進めた。支援教員が1グループあたり複数回Zoom等を活用して指導を行い、その成果をまとめている。研究成果は、院内研究発表会等での発表を予定している。これらの成果は、それぞれの看護実践での質向上が期待でき、県民の保健医療福祉の充実に貢献する可能性がある。

(3) 看護研究個別支援（継続）

令和3年度に個別支援を受けた2グループより希望があり、継続支援を行った。この2グループの方は、院内発表及び学会で発表を行った。

(4) 研究成果報告会

2019年、2020年度の個別支援・継続支援を受けた対象者及びグループの中から、2つのグループ（病院1グループ、市町村1グループ）の研究成果と活動プロセスについて、報告会をWeb（YouTube オンデマンド）開催した。看護研究セミナー申込者66名の成果報告会YouTube視聴回数は、2グループ合わせて103回であった。多くの者が視聴しており、看護研究個別支援の理解につながったと考える。

4 事業の課題及び改善の方向性

本年度も新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、Web（YouTube オンデマンド）にて看護研究セミナー及び看護研究個別支援（新規・継続）、研究成果報告会を開催したところ、例年以上の参加がみられた。本事業の対象は、医療現場の最前線で働く、看護師、助産師、保健師であり、コロナ禍においても研究セミナー等のニーズは高いといえる。次年度は、社会状況に合わせて、ハイブリッド開催等、安全かつ効果的に事業が実施できるような方法を検討することが課題である。

放射線教育・研修事業（放射線治療講習会）

担当者／診療放射線学部 ◎佐々木教授、高田准教授、大野准教授、津野助教

1 事業目的・内容

がんプロフェッショナル（医学物理士、放射線治療専門診療放射線技師等）の教育および養成のために、講演会を開催した。これを通じて、放射線治療技術の普及や向上とともに、がんの早期発見に繋がる検診への関心を高めた。

2 実施結果

(1) がんプロフェッショナル（医学物理士、放射線治療専門診療放射線技師等）の教育および養成

第1回「医学物理学講演会」

開催日：令和5年2月5日

開催場所：Web開催

参加者：県内外の診療放射線技師、医学物理士、機器開発者、学生（176名）

内容：放射線治療（DIBH・密封小線源治療）の基礎と歴史を知る

本年度は新型コロナウイルス感染防止等のため講演会はZoomを用いたWeb開催となした。第1回は近年放射線治療分野で注目されている乳癌放射線治療時の心臓線量低減に注目し、深吸気息止め照射（DIBH）の有効性と国内外の最新情勢に関して数多くの経験を有する医学物理士から講演していただいた。また、国内で最も多くの症例を行っている医学物理士（治療専門技師）から胸腹2点測定式呼吸モニタリング装置を用いたDIBHの臨床運用とその注意点について講演していただいた。さらに、実施施設が少ないとは言え重要な治療方法である密封小線源治療に関して、その歴史から今後の展望までを講演いただいた。このような幅広い知識を一度の講演で深めることができる機会は少ないため、地域の技術者、医学物理士および本学の学生にも貴重な機会となった。

非常に有用で実務に直接役立つ内容が多く、知識の再構築に有用と好評であった。まだ今回の講演内容を臨床応用していない施設から有用との高い評価が得られた。

3 事業成果・効果

群馬県内のみならず広域で放射線治療に携わる診療放射線技師、医学物理士、開発者および学生が講演会により知識を吸収し、ディスカッションを通して普遍的な放射線治療の概念と最新の治療技術を知る機会を提供した。本年度は、がんプロフェッショナル養成のための事業として、最新の放射線治療に関する基礎から応用までを学ぶことによって知識の整理を行い、最近のトピックスであるDIBHの臨床から密封小線源治療までの知識を深めた。県内の医療機関においてこれらの知識を応用されることが期待される。新型コロナウイルス感染症の影響でWeb開催となったが、参加者は大きく増加しており、多くの方に資することができた。放射線治療技術の向上のための講演会は、群馬県で治療を受ける患者の利益につながる有意義な活動である。

4 事業の課題及び改善の方向性

放射線治療に携わる医療従事者の育成については、県がん対策推進条例においても明記されており、専門的な医療従事者の質的向上を図る必要がある。

今後も、がんプロフェッショナル養成事業として、本学独自のセミナーの開催等を通じ、放射線技術系の基礎教育や継続教育に取り組んでいく。

放射線教育・研修事業（診療放射線技師 CT・MRI 研究会事業）

担当者／診療放射線学部 ◎林教授、高橋（哲）准教授、川村准教授、丸山助教

1 事業目的・内容

県内の診療放射線技師の臨床研究支援事業として、臨床現場における画像診断検査の向上・発展を目的とする研究の推進と発信に必要な方法を討論する研究会を実施する。これらにより、診療放射線技師の発展的な研究を支援し、大学院への進学や臨床研究の推進を導く。さらに臨床研究の推進により医療機関における医療技術の向上や高度医療の提供による県民への医療サービス向上を目指す。

2 実施結果

1. 主催事業

(1) 第19回健科大CT・MRI研究会の開催

日時：令和4年8月25日にZoomWebinarsを用いてWeb開催

申込数：16名、参加者数：15名

講演：診療放射線技師に必要な統計処理

丸山 星 先生（群馬県立県民健康科学大学）

(2) 第20回健科大CT・MRI研究会の開催

日時：令和5年3月9日にZoomWebinarsを用いてWeb開催予定

内容：最新の画像処理および解析手法について、共同研究枠組みの検討

2. 共催事業

健科大CT・MRI研究会共催で以下の研究会を実施

(1) 第16回 群馬Gyro Users Meeting

日時：令和4年5月31日（ZoomWebinars）

申込者数：44名、参加者数39名

(2) 第1回 ベーシックRTぐんま会

日時：令和4年6月9日（ZoomWebinars）

申込者数：41名、参加者数32名

(3) 第2回 ベーシックRTぐんま会

日時：令和4年12月8日（Zoomと多目的ホールを用いたハイブリッド）

申込者数：35名（Zoom）、参加者数25名（Zoom）、10名（対面）

3 事業成果・効果

第19回健科大CT・MRI研究会では診療放射線技師の臨床研究の推進を図るべく研究で必要となる統計解析の講義を実施した。また第20回健科大CT・MRI研究会では、本学卒業生を中心に臨床研究に興味のある医療従事者とオンライン会議を行い、本学と各施設の臨床共同研究の枠組みについて検討した。共催事業では、県内の医療機関で勤務する若手（特に20代）の診療放射線技師を対象としたベーシックな臨床技術研究会として発足したベーシックRTぐんま会の開催を2回共催した。また群馬Gyro Users Meetingは昨年と同様にオンラインで開催した。共催事業については、本事業担当者が幹事を務めていることから、研究会の内容の立案に協力するとともに、多目的ホールの会場提供やZoomWebinarsのオンライン会場の提供および研究会の運営をサポートできた。

4 事業の課題及び改善の方向性

コロナ禍で新たな形の学びの場としてオンライン研究会やハイブリッド研究会が実施されているが、比較的オンライン研究会の普及の遅い本県においても本学のサポートにより県内の研究会をオンラインやハイブリッドの形で実施できた。今後は参加者の増加や事業の広報を行いながら、臨床現場の診療放射線技師の技術向上を目的とした研究会や臨床研究の支援をさらに積極的に行う必要がある。

放射線教育・研修事業（診療放射線技師継続教育等事業）

担当者／診療放射線学部 ◎高橋（哲）准教授、林教授、渡部准教授、川村准教授、津野助教

1 事業目的・内容

県内診療放射線技師の撮像技術向上事業として、「MRI 専門技術者」資格の取得を視野に入れた講習会等を開催するほか、MRI を用いた共同研究と研修会を実施する。これらにより、診療放射線技師が最新の知識・技術を習得できるようにし、疾病の早期発見の機会の増加を図る。

2 実施結果

(1) MRI 技術講習会の開催

10月22日にWebinars講習会を開催した。本会は、MRIに携わる群馬県内外の診療放射線技師を主対象とし「MRI 専門技術者」資格の取得を視野に入れた講習会であった。

(内容)

- ① 日本磁気共鳴医学会のMRI 講座講師クラスを招いた基礎教育（中級者対象）：
「緩和とは何か」 富士フィルムヘルスケア 尾藤 良孝 先生
- ② 県内技師による事例報告・解説：
「専門技術者試験の受験経験など」 桐生厚生総合病院 藤生 敦哉 先生
「試験問題の解説」 本学 川村 拓 先生
- ③ 本学の事例紹介：「教育ビデオ作製事例紹介」 本学 高橋 哲彦 先生

(2) 群馬MR研究会への支援

Webinars形式（1回）・対面形式（2回）の開催を支援した。

(3) CT・MRIに関する他施設との共同研究の実施

桐生厚生病院、伊勢崎市民病院、群馬大学医学部附属病院、美原記念病院それぞれの放射線技師と本学の教員（高橋、林）でMRIによる定量化に関する共同研究を行った。

3 事業成果・効果

今年度のMRI講習会は昨年と同様ZoomWebinars形式で開催した。対象はこれからMRIを専門的に扱う若手技師を主とし、内容は「基礎から応用まで幅広く学べる」ものとした。参加者数は、県内外から申込者数156名、参加者100名で、内容・運営ともに好評であった。

群馬MRI研究会については、後半の開催から対面式を復活し本学内で開催となった。本事業の運営等を支援した。

県内施設との共同研究は、本学診療放射線学部の高橋准教授を中心に磁化率マッピングQSMを用いた定量評価に関する多施設共同研究を継続し、本年度はTeamsを用いて7回打合せを実施した。本研究の成果として、前向きな多施設臨床研究を立ち上げた。

4 事業の課題及び改善の方向性

MRI講習会は、県内の診療放射線技師のスキルアップの施策として継続していく。

群馬MR研究会への支援は、引き続き、運営などを支援していく。

他施設との共同研究はQSM共同研究を引き続き発展させて進めていく予定である。

放射線教育・研修事業（群馬県診療放射線技師会講習支援事業）

担当者／診療放射線学部 ◎五十嵐准教授、米持講師、丸山助教

1 事業目的・内容

群馬県診療放射線技師会が開催する「令和3年厚生労働省告示第273号研修」へ講師の派遣等を行い、地域の診療放射線技師の技術向上に貢献する。また、関連の講習事業についても開催支援を行い、診療放射線技師のさらなる知識・技術の向上に貢献する。

2 実施結果

(1) 令和3年厚生労働省告示第273号研修

- ・第1回：令和4年7月30日（土）

開催場所：本学多目的ホールほか

講師：平澤裕美先生（群馬大学医学部附属病院）、佐藤正樹講師

ファシリテーター：干川重光先生（太田記念病院）、目崎 聡先生（吾妻脳神経外科循環器科）、櫻井昇幸先生（群馬県感染症・がん疾病対策課）、五十嵐博准教授、米持圭太講師、丸山星助教

参加人数：44名

- ・第2回：令和4年7月31日（日）

開催場所：本学多目的ホールほか

講師：対馬義人先生（群馬大学医学部附属病院）、佐藤正樹講師

ファシリテーター：干川重光先生（太田記念病院）、目崎 聡先生（吾妻脳神経外科循環器科）、櫻井昇幸先生（群馬県感染症・がん疾病対策課）、五十嵐博准教授、米持圭太講師、丸山星助教

参加人数：44名

内容：動画視聴、上部消化管実技、下部消化管実技、動脈実技、静脈実技、静脈（核医学・CT・超音波）

※本学からの支援（会場運営・受付等）：米持圭太講師、丸山星助教

- ・第3回：令和4年10月29日（土）

開催場所：本学多目的ホールほか

講師：根岸 幾先生（高崎総合医療センター）、佐藤正樹講師

ファシリテーター：干川重光先生（太田記念病院）、目崎 聡先生（吾妻脳神経外科循環器科）、櫻井昇幸先生（群馬県感染症・がん疾病対策課）、鈴木智也先生（館林厚生病院）五十嵐博准教授、丸山星助教

参加人数：45名

- ・第4回：令和4年10月30日（日）

開催場所：本学多目的ホールほか

講師：高橋綾子先生（群馬大学医学部附属病院）、佐藤正樹講師

ファシリテーター：干川重光先生（太田記念病院）、目崎 聡先生（吾妻脳神経外科循環器科）、櫻井昇幸先生（群馬県感染症・がん疾病対策課）、鈴木智也先生（館林厚生病院）五十嵐博准教授、丸山星助教

参加人数：45名

内容：動画視聴、上部消化管実技、下部消化管実技、動脈実技、静脈実技、静脈（核医学・CT・超音波）

※本学からの支援（会場運営・受付等）：米持圭太講師、丸山星助教

- ・第5回：令和5年1月21日（土）

開催場所：本学多目的ホールほか

講師：大屋成之先生（群馬県立がんセンター）、和田卓磨助教

ファシリテーター：干川重光先生（太田記念病院）、目崎 聡先生（吾妻脳神経外科循環器科）、櫻井昇幸先生（群馬県感染症・がん疾病対策課）、五十嵐博准教授、米持圭太講師、丸山星助教

参加人数：44名

- ・第6回：令和5年1月22日（日）

開催場所：本学多目的ホールほか

講師：吉原晃生先生（群馬大学医学部附属病院）、佐藤正樹講師

ファシリテーター：干川重光先生（太田記念病院）、目崎 聡先生（吾妻脳神経外科循環器科）、櫻井昇幸先生（群馬県感染症・がん疾病対策課）、五十嵐博准教授、米持圭太講師、丸山星助教

参加人数：46名

内容：動画視聴、上部消化管実技、下部消化管実技、動脈実技、静脈実技、静脈（核医学・CT・超音波）

※本学からの支援（会場運営・受付等）：米持圭太講師、丸山 星助教

(2) 令和4年度 群馬県がん検診エックス線撮影従事者講習会

- ・第1回：令和4年10月11日（火）

演題名：『乳がん検診の現状とマンモグラフィの最新情報』

演題名：『マンモグラフィ所見のカテゴリー分類』

講師：新井敏子先生（ぐんまマンモグラフィ向上委員会）

参加人数：35名

- ・第2回：令和4年11月8日（火）

演題名：『うっかりミスはなぜ起きる—そのメカニズムと防止対策を考える—』

講師：五十嵐博准教授

参加人数：14名

- ・第3回：令和4年12月6日（火）

演題名：『胃がん検針発見症例の詳説』

講師：茂木文孝先生（（公財）群馬県健康づくり財団診療所 院長）

参加人数：18名

会場：本学多目的ホール

*第3回のみ（公財）群馬県健康づくり財団 6階 大会議室

※本学からの支援（会場運営・受付等）：五十嵐博准教授

(3) 診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー

開催日：令和4年4月24日（日）

開催場所：本学多目的ホール

講師：後閑隆之先生（群馬県診療放射線技師会）、

青木里佳先生（医療法人石井会 渋川伊香保分院）、米持圭太講師

参加人数：19名

※本学からの支援（受付等）：五十嵐博准教授、米持圭太講師

(4) 日本診療放射線技師会主催「基礎技術講習 (MRI 検査)」

開催日：令和5年2月12日 (日)

開催場所：本学多目的ホール

講師：尾崎大輔先生 (群馬大学医学部附属病院)、藤生敦哉先生 (桐生厚生総合病院)、高橋雅彦先生 (伊勢崎市民病院)、浅野和也先生 (群馬大学医学部附属病院)、飯塚裕也先生 (老年病研究所附属病院)、長瀬博之先生 (前橋赤十字病院)

参加人数：46名

※本学からの支援 (受付等)：米持圭太講師

(5) 群馬県 臨床検査技師 診療放射線技師 合同勉強会

第1回 令和3年度に実施済み。

第2回

開催日：令和4年5月11日 (水)

開催場所：本学大講義室

演題名『乳腺画像を極める vol.2』

講師：吉田人美先生 (みさと診療所・本学非常勤講師)、有馬ひとみ先生 (前橋赤十字病院)

参加人数：82名

※本学からの支援 (会場運営等)：五十嵐博准教授、米持圭太講師

第3回

開催日：令和4年11月10日 (木)

開催場所：本学大講義室

演題名『心臓を極める』

講師：石井智晃先生 (公立富岡総合病院)、有馬ひとみ先生 (沼田脳神経外科循環器科病院)

参加人数：61名

※本学からの支援 (会場運営等)：五十嵐博准教授、米持圭太講師

(6) 超音波実技セミナー

開催日：令和5年3月11日 (土)

開催場所：本学超音波演習室

講師：吉田人美先生 (みさと診療所・本学非常勤講師)

参加人数：9名

※本学からの支援 (会場運営等)：五十嵐博准教授

3 事業成果・効果

群馬県診療放射線技師会が開催する講習会等に講師を派遣し、群馬県内外の技術レベルの向上に寄与することができた。令和3年度から「令和3年厚生労働省告示第273号研修」が新規事業となり、6回開催することができた。また、がん検診エックス線撮影従事者講習会等の開催にも協力することで、県内のがん検診に従事する診療放射線技師のさらなる知識・技術の向上についても活動することができた。

4 事業の課題及び改善の方向性

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、会場型の講習会開催において感染防止対策を講じた。また、「令和3年厚生労働省告示第273号研修」を継続して開催していく。この事業についても、本学から講師派遣や会場提供等できるように関係団体と調整を進めていく。

放射線教育・研修事業（国際化研究支援事業）

担当者／診療放射線学部 ◎小倉（敏）教授、渡部准教授

1 事業目的・内容

県内診療放射線技師の研究支援事業として、国際学会発表を目的とした講習会等を実施する。これらにより、県内の診療放射線技師が海外に研究内容を発信し、世界レベルのディスカッションが可能となるように、サポートすることにより、県内の医療がより発展することが期待できる。

【具体的な取組み】

- (1) 本学で行っている国際発表研究の紹介
- (2) 国際学会の申請の方法
- (3) 国際学会のスライド作成法・発表方法の講演

2 実施結果

国際化研究支援講演会の開催

診療放射線学部国際化研究支援セミナーを開催した。

日時：12月9日（金曜日）

タイトル：「海外研修を通じて分かった国際学会の楽しみ方」

講師：国立がん研究センター東病院倫理審査事務室 放射線技術部

放射線診断技術室 柳澤かおり先生

参加者：男性 20名

女性 56名

合計 75名

3 事業成果・効果

新型コロナウイルス感染症の流行拡大のため、開催の機会がなかなか得られなかったが、流行の谷間に対面で開催できたことは良かった。

4 事業の課題及び改善の方向性

県内の診療放射線技師等の研究支援事業として、国際的視野を身につけるための講習会を行った。国際学会発表および海外経験豊富な柳澤先生に講演していただいた。国際学会発表に向けた研究の進め方、国際学会への応募の仕方、国際学会のためのスライドの作成方法の助言、国際学会の報告、国際学会の楽しみ方など4時間弱の時間の講演をいただいた。

今年度も新型コロナウイルス感染症の流行状況を見ながら健科大にて、多くの方が世界を視野に入れた活動ができるよう、講師を迎えて講習会を開く予定である。

放射線教育・研修事業 (診療放射線技師核医学研究会事業)

担当者／診療放射線学部 ◎大崎教授、丸山助教

1 事業目的・内容

県内診療放射線技師および学生を対象に、核医学専門技師の取得を視野に入れた核医学検査に関わる継続的な講習会の機会を提供する。また、技術支援を通して核医学の臨床研究や多施設研究の推進を行う。

1. 核医学に関わるセミナーの定期開催 (Zoom Webinarsを活用)

事業計画1～3に対して、本校卒業後の診療放射線技師、もしくは本県の病院に就職した経験の浅い診療放射線技師に対して核医学に関わる知識・技術を継続的にブラッシュアップする講習会を提供する。

2. 多施設研究や標準化を推進するための技術支援 (Zoom Webinarsを活用)

事業計画4に対して、技術的支援を通して本県における多施設研究の推進により学会発表や論文文化を支援する。また、国内外の研究に関わる最新動向や最新技術に関わる情報を講習会、研修会などにより提供する。

2 実施結果

(1) Zoom Webinarsを用いた核医学技術セミナーの開催 (2回から1回に変更)

第1回：令和5年1月に日本核医学会関東甲信越地方会との共同開催をZoom Webinarsにて実施した。参加者は62名。研究発表6題、教育講演1題、特別講演1題。

(2) 核医学に関する共同研究の推進

1) 量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所に訪問し、内用療法の線量評価に関する研究に関わる研究打ち合わせを実施。メール会議等で研究を進め、第3回標的アイソトープ治療線量評価研究会にて本学の研究成果の一部を発表した。

2) 藤岡総合病院との共同研究成果を本学の卒業研究として発表を行った。

3 事業成果・効果

事業初年度ということもあり、県内の核医学施設の事業への協力体制構築に時間を割く必要があった。本学の技術支援に関するニーズ調査を行い、QST高崎量子応用研究所と標的アイソトープ治療線量評価に関する研究の協力体制を構築できたことは有意義であった。

4 事業の課題及び改善の方向性

本事業に関わる研究機関、企業 (日本メジフィジックス、PDRファーマ、GEヘルスケア、キャノン等) の協力体制を構築し、県内の核医学に携わる診療放射線技師に有意義な講習会を実施していく予定。長期的な視点で、本学が有する技術提供による共同研究を推進し、県内の研究発表の活性化を行っていくことで若手人材の育成を推進していく。

放射線測定協力事業

担当者／診療放射線学部 原教授、◎杉野准教授

1 事業目的・内容

放射線測定に関する助言・指導、測定値の解釈・評価、対策の立案・実施に関する助言等を通じて、県民に安全安心の提供を図る。



2 実施結果

【空間線量率測定結果の評価】

- (1) 地域住民に安全と安心を提供するため、前橋市環境部環境森林課がバイオマス発電施設周辺地域4地点および市内公園、支所等施設21地点、合わせて計25地点の空間線量率を2回（5,11月）実施した。その測定結果に基づいて監修を行い、線量評価報告書を提出した。
- (2) みどり市の住民に安全と安心を提供するため、みどり市生活環境課が小中学校、公園等の施設計47箇所の空間線量率測定を2回（5,11月）実施した。その測定結果に基づいて監修を行い、線量評価報告書を提出した。測定結果およびコメントはみどり市のHPで公開されている。
- (3) 毎年、川場村で行われている世田谷区小学5年生の移動教室に先立ち、川場村むらづくり振興課が宿泊施設およびキャンプ場等の空間線量率測定を行った（令和4年12月）。その測定結果に基づいて線量評価報告書を提出した。報告書は、世田谷区教育委員会が行う「川場村移動教室説明会」において、世田谷区内の小学5年生の保護者全員に配付される予定である。

3 事業成果・効果

今年度は、バイオマス発電所が本格的に稼働して5年目の空間線量率測定となった。発電所周辺の空間線量率について、稼働前と稼働後の測定値に差異がないことを確認し、地域住民に安全性を示すことができた。稼働前、地域住民から多くの心配と苦情が前橋市に寄せられていたが現在はほとんどなくなったとのことである。また、4年度は市内公園、支所等施設21地点についての線量評価報告書も提出することとなった。みどり市については、5月および11月に1回ずつ、47施設において空間線量率測定が実施され、その結果に基づいて線量評価報告書を提出した。年間を通じて測定値に大きな変動はなく、住民からの質問等もない状況である。川場村については、世田谷区の移動教室で利用する宿泊施設やキャンプ場、ハイキングコース等において、令和4年12月に空間線量率測定が実施されたが、測定結果は令和3年12月と比較して差異はみられなかった。測定結果に基づいて作成した線量評価報告書を令和5年2月に川場村へ提出した。今後も線量評価の依頼があった自治体については、専門学的な立場から測定結果に対してのコメントを提示するとともに、各自治体のHPや説明会等を通じて公表し、住民に安全と安心を提供する。

4 事業の課題及び改善の方向性

東京電力福島第一原子力発電所の事故を契機に、原発由来の放射性物質に対する県民の不安解消の一助となるような活動を計画し遂行した。今後も環境中の放射線および放射能に関わる様々な疑問にお応えし、県民の不安や心配の解消に繋がるための活動を続けていく。また、自治体および市民団体等より、放射線・放射能に関する研修会、講演会等の要望があった際には、基礎的な知識獲得の支援や原発事故前後の県内の放射線量率の変動などについて情報を提供する。これらにより、県民が正しい情報の理解を進めることができ、ひいては県民および地域の方々の安心感に繋がるものと考えている。

教育普及事業

担当者／看護学部 石川教授、鶴生川准教授、小西講師、中川助教
診療放射線学部 ◎青木教授、大崎教授、寺下准教授、西村助手

1 事業目的・内容

主にこれまで実施してきた県民を対象とした公開講座や講演会等の事業を引き続き行い、地域貢献活動を積極的に行う。

2 実施結果

(1) 公開講座の開催（本学主催の県民を対象とした講座）

第1回公開講座 「ご存じですか？“保健所の仕事”～どんな時に頼ればいいの・頼れるの？～」

令和4年8月20日土曜日午後 大講義室にて対面開催

【講師】公益財団法人群馬県生活衛生営業指導センター 経営指導員 川崎英弘氏

（元渋川保健所危機管理専門官、放射線技師）司会：大澤真奈美教授 参加者60名

【受講者の意見】

- ・具体的な現場のエピソードも交えたお話で保健所の実際を少しイメージできたように、感じます。大変勉強になりました。
- ・保健所の実態や構成、主な業務について詳しく説明されていて分かりやすかった。
- ・講師の先生の厚い知識とテンポの良い話術に引きこまれ時間があっという間にすぎました。次回もぜひ参加したいとの思いが強いです。

第2回公開講座 「聞いてなっとく、画像診断—MRI/核医学検査って何？—」

YOUTUBE動画配信期間 令和4年11月10日～12月12日

【講師】本学診療放射線学部

①高橋哲彦准教授 MRI検査って何？ 何が見えるの？

②大崎洋充教授 核医学・PET検査で身体の機能が見える!?

申込者237名、閲覧回数①350回、②214回、合計564回

【受講者の意見】

- ・CT、MRI、各医学検査の違いと特徴がよく分かりました。今後病院で受ける時に、検査目的に対する理解が深まり、各医学検査の違いと特徴がよく分かりました。
- ・初めて受講しました。特に、実際に医療機関でCTやMRIの検査を受けているので、身近に感じ、受講しました。今後このような講座の開催、案内を希望いたします。

(2) 出前講座

【のべ出前講座数】32回、【のべ受講者数】744名

(3) 公開授業（県民を対象とした本学学部授業の公開）

新型コロナウイルス感染症対策のため中止

3 事業成果・効果

県立大学として求められる水準にふさわしい公開講座となるような企画立案をしている。本年度は新型コロナウイルス感染症対応に大活躍の、保健所の仕事に注目してみた。幸い第1回は対面講座が開催でき比較的好評であった。また第2回はオンデマンドの形で実施した。ラジオや大学ホームページ、県庁の放射線技師のサイト上での広報を積極的に行った結果、動画再生回数は、講義1・講義2を合わせて564回を超え、海外からもアクセスがあった。本事業は、上記のような公開講座や出前講座、公開授業の実施を通じ広く県民に本学の教育活動や教員が実施する研究を理解していただくものであると同時に、県立大学としての存在意義を再認識していただくと共に、重要な事業であることを改めて認識した。

4 事業の課題及び改善の方向性

大学機能として地域貢献活動を盛り込んだ改正学校教育法の趣旨から鑑み、医療専門職だけでなく、地域住民をはじめ多くの県民の皆様には、大学の知的財産を還元することが要請されている。本学では、これまでどおり、公開講座や講演会に加えて、要請の多い出前講座等にも新たなメニューを加えながら活動を行い、地域貢献活動を積極的に実施すると共に、県民の皆様には、法人化の利点を活かしながら、今以上に出張講座を活用いただけるよう、要望のあった様々なテーマで公開講座を企画するとともに、大学の現状や卒業生の活躍の広報も含め、他委員会と共により広範な広報活動に力を入れる必要がある。

地域連携推進事業

担当者／看護学部 ◎狩野教授、高井教授、大川准教授、益子講師、久保講師、垣上講師、中野講師、樋口講師、橋爪講師、鈴木（恵）講師、生方講師、高橋（美）助教、高橋（佳）助教
診療放射線学部 原教授、長島准教授、川村助教、西村助手

1 事業目的・内容

本センターの活動を広く県民に知っていただくために、地域連携センターNewsletter及び地域貢献活動報告書を発行する。また、学生ボランティア活動の支援体制の充実に取り組む。

2 実施結果



(1) 地域連携センターNewsletterの発行

- ア Vol.10/No.1 7月発行 報告：公開講座、医学物理学講演会の開催、大学院生の学会賞受賞ほか
- イ Vol.10/No.2 11月発行 報告：桃ノ木リバーを愛する会、ホリデーインまえばしなど学生ボランティア、オープンキャンパスの開催、診療放射線技師フレッシューズセミナーの開催ほか
- ウ Vol.10/No.3 3月発行 報告：ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる 医療人材養成事業、診療放射線技師法改正に伴う告示研修の開催、リレー・フォー・ライフ・ジャパンぐんま2022への学生ボランティア参加、大学院生の学会表彰、修了生の認定看護管理者試験合格、ほか

(2) 令和3年度の地域貢献活動報告書の発行

(3) 学生ボランティア

桃ノ木リバーを愛する会による河川敷の環境美化や花の植え付け、ボランティアサークルによるホリデーインまえばしへの出展、有志ボランティアによるリレー・フォー・ライフ・ジャパンぐんま2022への参加と会場設営補助

(4) 他大学との連携

- ア 群馬県の16大学（高専を含む）連携「ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク」へ参加した
- イ 「めぶく。プラットフォーム前橋」の活動に参加し、Web共同公開講座の公開を行った

(5) 地域連携センターリーフレットの配付

3 事業成果・効果

地域連携センターNewsletterや地域貢献活動報告書の発行により、本センターの活動を広く県民の皆さまに紹介することができた。特にNewsletterでは、本学教職員が中心となって進めている研修会や講演会、大学院生や修了生の受賞や資格取得、学生ボランティアによる地域貢献の様子などについて、詳しく情報を発信することができた。

新型コロナウイルス感染症のため、一部の学生ボランティアの参加は中止となったが、今年度は規模を縮小しつつも多くの活動を再開することができた。次年度も引き続き感染対策を講じた上で、社会情勢の変化にも柔軟に対応しながら、学生のボランティア活動や大学間連携などの活動を通じて、地域に貢献したいと考える。

4 事業の課題及び改善の方向性

コロナ禍に伴い、学生ボランティア活動や大学間の連携事業などが3年間にわたって中止や大幅な規模の縮小を強いられてきた。このため、一部の活動が再開したもの、ボランティアを希望する学生が大幅に減少したり、これまでの活動ノウハウが継承できないなどの課題が顕在化している。今後も継続が期待される活動については、活動の魅力や実際の様子に関係教職員から学生達に分かりやすく伝え、ノウハウの継承に支障が出ている活動についても関係教職員の支援により活動が再開できるよう調整や連携を図りたい。

健康福祉政策事業（健康福祉部、生活こども部等）

担当者／看護学部 ○行田教授
診療放射線学部 高橋（哲）准教授、米持助教

1 事業目的・内容

群馬県健康福祉部等と情報交換を行い、マッチングした事業の展開を図る。

- (1) 認知症サポーター養成支援（要請に応じて展開）
- (2) 県民の健康福祉施策の実現に向けた事業の協働展開
- (3) 県民の健康福祉に向けた施策の立案に必要なデータの分析、活用に係る調査研究等

2 実施結果

(1) 認知症サポーター養成支援

- ア 認知症サポーター・ステップアップ研修教材を大学HPに提示
 - (ア) 再生回数 食事のよい例599回、食事よくない例830回（H29年度より）
- イ 小規模町村支援事業モデル地区の榛東村にて研修会を開催
 - (ア) 担当者：狩野教授
 - (イ) 実施状況：榛東村村民（12人）

(2) 県民の健康福祉施策の実現に向けた事業の協働展開

- ア 子育て講座プログラム政策・普及への協力【継続】
 - 「群馬県子育て講座乳児編のプログラム」は、生活こども部児童福祉・青少年課家庭福祉係と検討し、「ほめトレ乳児期編」トレーナー・マニュアルを作成中である。
- イ 健康長寿社会づくり推進課主催「若い世代の食育推進協議会」への参加【継続】
 - (ア) 担当者：塩ノ谷講師
 - (イ) 実施状況：県内7大学教員と学生による協議会に出席
また、学内において「未来の自分、そして次世代のために、あなたも食生活を見直してみませんか」をテーマに健康教育を実施した。
- ウ 「群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定」
平成29年度より群馬県保健福祉事務所（10施設）に簡易半導体測定器を配布。
令和4年度、支援活動は行わず、感染症・がん対策課の担当者と打合せを行った。
担当者：高橋（哲）准教授、米持講師

(3) 県民の健康福祉に向けた施策の立案に必要なデータの分析、活用にかかる調査研究等

実施なし

※令和4年度は、健康福祉部との情報交換会は実施されなかった。

(4) 新型コロナウイルスワクチン接種事業【臨時】

令和4年度は県営ワクチン接種センター（東毛・県央）への従事はなかった。

3 事業成果・効果

「認知症サポーター養成支援」

平成29年度に開発した認知症サポーター・ステップアップ研修教材を大学ホームページに公開している。これにより、認知症の人々を支える地域づくりの知識の普及に繋がっており、今年度は小規模町村支援事業モデル地区から依頼があり研修依頼も続いている。

「群馬県子育て講座 乳児編のプログラム」

ほめトレ乳児期編トレーナー・マニュアルを検討し、子育て支援につながっている。

「若い世代の食育推進協議会」参加

教員及び学生が会議に参加し、協議内容を共有した。また、学内にて健康教育を実施できた。

「群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定」

群馬県保健福祉事務所（10施設）に配布した簡易半導体測定器（10台）によるX線装置の日常的な精度管理を継続することにより、各保健福祉事務所におけるX線装置の日常的な精度管理方法を確立することが可能となった。

4 事業の課題及び改善の方向性

「認知症サポーター養成支援」については、ホームページに公開した支援教材を広く活用して頂くことにより認知症サポーター養成を支援するとともに、可能な限り社会の要請に対応していく。

「群馬県子育て講座 乳幼児のプログラム」は、児童福祉・青少年課家庭福祉係と連携してトレーナー・マニュアルを検討中である。

「群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定」については、精度管理の支援を継続していく。

新型コロナウイルス感染症が感染症5類に移行後、さらに群馬県との各事業を継続し、県民の健康福祉に資する活動を計画的に展開できるように、各部門と調整していく必要がある。

健康寿命延伸プロジェクト

担当者／看護学部 ◎大澤(真) 教授、宮崎教授、狩野教授、清水准教授、塩ノ谷講師、鈴木(美) 講師、
坪井講師、佐藤講師、大澤(康) 助教、久保助教
診療放射線学部 瀬川教授、長島准教授、大野准教授、佐藤准教授

1 事業目的・内容

平成28年度政策プレゼン「健康寿命延伸プロジェクトⅡーぐんまエクステンションプラン」に基づき、県民の健康寿命延伸を目指した事業に取り組む。

具体的には、群馬県健康福祉部及び県内市町村との協働により、地域の実態把握・課題分析・健康課題の明確化、調査研究、実践プログラムの企画及び実施、人材育成等について、科学的根拠に基づいた健康づくり対策を展開する。

1) 群馬県健康福祉部との共催による「元気に動こう・歩こうプロジェクト」の推進

(1) ぐんま元気の5カ条は第1条の実践から」における「実践フォーラム」等イベントの開催を企画、実施する。

2) 群馬県内市町村との共催による「健康寿命延伸シンポジウム」の開催

(1) 県内のシンポジウム未実施市町村との共催によりシンポジウムを企画開催し、「ぐんま元気5カ条」の普及啓発を行う。

3) 小規模町村支援事業のモデル地区として選定した榛東村の健康づくり対策に対する協力

(1) 令和6年度からの市町村における新規事業「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施」について、令和3年度に引き続き村と協議した上で、課題を明確にするための健診データの分析や実践の具体策を検討する。

(2) 身体活動量計を活用した研究を推進する。

(3) 保健福祉計画策定等に委員として参画し、有識者の立場から発言する。

(4) 慢性腎臓病発症予防・重症化予防リーフレットを村と共同作成し、住民に配布する。

(5) 認知症サポーター・ステップアップ研修の講師として協力する。

(6) その他 村の要望を踏まえ検討する。

4) 館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力

(1) 市のプラットフォーム会議及び専門委員会において、専門的な立場から同市の健康寿命延伸に関する提言を行う。

5) 群馬県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業に対する取り組み

(1) 施設が実施している健康教室利用者を対象として、収集したデータ分析をすすめ、心身への影響について、心理的指標及び生理的指標を用いて検証し、介入研究を実施する。

6) 「ぐんま元気エクステンションセミナー」の開催

(1) 出前講座登録時に「健康寿命延伸プログラム」と明示した16講座を「ぐんま元気エクステンションセミナー」として開催する。

2 実施結果

1) (1)について、「元気に動こう・歩こうプロジェクト」推進の一環として県が企画したヘルスアップセミナー「企業や飲食店等における食環境づくりとソーシャルマーケティング」の企画、実施において協力した。(開催日時：令和5年1月16日(月) 14:00～15:30、県庁ビジターセンター及びZoomによる開催)

2) (1)について、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催は保留となった。

- 3) (1) について、榛東村の特定健診、後期高齢者健診、介護保険等の健康に関するデータ分析に協力し、「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施」の新規事業計画策定を支援した。計画策定については村と協議し、健康課題を明確にするための健診データの分析方法や実践の具体策を検討した。
- (2) について、研究を継続した。
- (3) について、今年度の実績はなかった。
- (4) について、慢性腎臓病発症予防・重症化予防リーフレットを村と共同作成し、住民に配布した。
- (5) について、認知症サポーター・ステップアップ研修（8月4日、24日、29日、参加登録14名、参加12～13名）、上級サポーター研修（11月11日：参加5名）の講師として協力した。
- 4) (1) について、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催は保留となった。
- 5) (1) について、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催は保留となった。
- 6) (1) について、合計12件のセミナーを開催した。

3 事業成果・効果

新型コロナウイルスの感染拡大が、令和3年度に続き、令和4年度も健康寿命延伸プロジェクトの実施に大きく影響をあたえ、多くの事業が実施できない状況であった。実施できた事業は少なかったが、成果・効果は以下のとおりである。

小規模町村支援事業による榛東村に対する取り組みとして、令和6年度からの市町村の新規事業である「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施」に向けて、村の保健と介護に関わるデータ分析を行い、健康課題を明確にし、計画を策定する事ができた。また出前講座を通し、県民の健康寿命延伸に貢献することができた。

4 事業の課題及び改善の方向性

1) の「元気に動こう・歩こうプロジェクト」については、令和5年度が県予算の最終年度を迎える。最終年度にふさわしい企画を県との協働により企画実施する。

2) の「健康寿命延伸シンポジウム」については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、実施が保留のままとなっている。次年度の開催について県と協議していく。

3) の榛東村に対する小規模町村支援については、引き続き村の要望を踏まえ協議していく。また令和6年度から新規開始事業である「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施」については、引き続き進捗状況を確認し必要な協力を行っていく。また身体活動量計データを活用した共同研究をさらに進めることが課題である。

4) の「館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業」への協力については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、実施が保留のままとなっている。次年度の市の要望について確認していく。

5) の「群馬県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業」については、新型コロナウイルスの感染拡大により閉鎖されている温水プールが再開後、プールでのデータ収集を継続し、収集したデータの分析を進め、研究成果としてまとめる。

6) の「ぐんま元気エクステンションセミナー」については、今後も出前講座登録時に「健康寿命延伸プログラム」と明示した講座について、「ぐんま元気エクステンションセミナー」として開催する。

ピックアップ

出前講義

【健康寿命延伸プログラム】

「手・足・口を使った頭の体操で脳を活性化しよう！」

本学看護学部 講師 樋口友紀 福島 昌子

- 概要：本講座「手・足・口を使った頭の体操で脳を活性化しよう！」は、県内で生活する高齢者を対象にした健康寿命延伸プログラムです。認知症は年を重ねれば誰にでも起こりうるとても身近な病気です。少しでも認知症の発症時期を遅らせることができるように、生活における工夫点をお話しし、手・足・口を使ったゲームなどを通して、参加者の皆様と楽しい時間を過ごし、脳の活性化に向けた活動の一助になることを目指しています。
- 主な講演内容：知識編—知っておきたい認知症の知識、認知症を予防するための暮らしのコツ、実践編—手・足・口を使った頭の体操
- 参加者の感想：とても楽しかった。家でもやってみよう。勉強になった。たくさん笑った。認知症の症状が現れた本人が不安を抱かず、存在意義や生きがいを感じて生活できるように家族として接していこうという気持ちになれた。具体的でわかりやすかった。今までにやったことのない脳トレでとても参考になった。座ったままでできるのが高齢者に良いと思う。

色を使った頭の体操

- これから出てくる4つの色にはそれぞれ決まったポーズがあります。
- 色を見たら、なるべく早く決められたポーズをしてください。
- *ポーズと同時に色も答えて下さい。



脳老化を防ぐ生活習慣

1. 食習慣：野菜・果物(ビタミンC、E、βカロチン)をよく食べる
魚をよく食べる
赤ワイン、緑茶を飲む
2. 運動習慣：週3日以上の有酸素運動
3. 対人接触：人とよくお付き合いをしている
4. 知的行動習慣：文章を書く・読む、ゲーム、博物館等
5. 睡眠習慣：30分未満の昼寝、起床後2時間以内の日光浴
6. 禁煙
7. よく噛む：奥歯(義歯)を使ってしっかり噛む

参考文献 金森雅夫編『認知症』認知症ケア実践ガイド 日本看護協会出版会
認知症ケア https://doi.org/10.1188/jn.2018.0101

今すぐできる認知症予防策

- ◎地域のサロンや介護予防・認知症予防教室への参加 →
近所の仲間、新しい友人との交流、体操や脳トレ、おしゃべりを通して脳の活性化、社会参加が可能
- 生きがいを感じ、前向きに生き生きと過ごすことが、認知症の発症遅延に有効



認知症が気になった時の相談先

- 地域包括支援センター(各市町村)
- 群馬県認知症疾患医療センター(13医療機関)



学識経験者としての県内市町村での貢献活動

前橋市市政功労者表彰受賞について

令和4年3月、看護学部の大澤真奈美教授が、前橋市の「前橋市市政功労者表彰」を受けました。

大澤教授は前橋市環境審議会委員として長年にわたり前橋市の環境行政に協力し、市政発展に貢献したことから、その功績が称えられ、今回表彰されたものです。

前橋市環境審議会委員の仕事は、前橋市の環境政策に関わる計画策定、計画の変更の際し、地域住民の健康を守る任務を担う、公衆衛生看護に関わる学識経験者の立場から意見を提案するというものです。今年3月までに関わった計画は、『前橋市地球温暖化防止実行計画』『前橋市環境基本計画』『前橋市新エネルギー導入アクションプラン』などです。

受賞に際し大澤教授は「前橋市には本学の実習にご協力頂いていることから、感謝の気持ちを込めて市の事業にできるだけ協力させて頂きました。気が付くと10年が経過していました。本学に所属しているからこそ前橋市の事業にも関わることができ、続けてこられました。これからも協力できることはぜひ協力していきたいです。」と挨拶されました。



看護学部
大澤真奈美 教授

公開講座

【テーマ】ご存じですか？『保健所の仕事』どんな時に頼ればいいのか・頼れるの？

【日時】令和4年8月20日（土）13:00～15:00

【会場】群馬県立県民健康科学大学 大講義室

【講師】公益財団法人 群馬県生活衛生営業指導センター 経営指導員 川崎 英弘

【申込方法】詳細は本学ホームページをご覧ください。

お知らせ

対面およびWEBでのオープンキャンパスを開催します！

【開催日】2022年8月6日・7日（土・日）

【時間】午前の部 9:30～10:30 11:00～12:00

午後の部 13:30～14:30 15:00～16:00

完全予約制

今年のオープンキャンパスは対面とWEBの両方で実施します。詳細は本学ホームページをご覧ください。たくさんの皆さんの参加をお待ちしています！



【令和3年度 第2回公開講座「手・足・口を使った頭の体操で脳を活性化しよう」が開催されました】

看護学部 講師 樋口 友紀、福島 昌子

感染予防対策のため、第2回公開講座はオンデマンド方式のWeb開催となりました。全体の受講者数は101名、再生回数は367回で、多くの方々に繰り返しご視聴いただきました。認知症は、年を重ねれば誰にでも起こりうる身近な病気です。少しでも認知症の発症時期を遅らせることが出来るように、生活における工夫点をお話しし、本学の学生が実際に手・足・口を使った頭の体操を紹介しました。画面越しではありますが、参加者の皆様が笑顔で楽しく実践できるように想像しながら動画を作成しました。参加者の皆さまからは、「自分の好きな時間に視聴でき学生さんと一緒に講義を楽しめた」「地域のサロンで体操を実施し、たくさん笑って楽しんでもらえた」等の嬉しい感想を頂きました。コロナ禍においても高齢者の方々の活動性が低下しないような取り組みを継続していきたいと思っております。



【2021年度 第2回医学物理学講演会が開催されました】

診療放射線学研究科 教授 佐々木 浩二

がんプロフェッショナル養成プラン関東がん専門医療人養成拠点事業に沿って、放射線治療教育プログラム「第2回医学物理学講演会」が令和4年2月20日に開催されました。今回は最近のトピックとして心房細動定位放射線治療の臨床導入に関する基礎知識、および体表面画像誘導放射線治療（SGRT）の原理と臨床を学び、さらに臨床データ解析において避けて通れない不確かさの評価と利用方法についての講演を行いました。幅広い知識を一度に深めることができる良い機会であり実務的にも役立つ内容が多く、知識の再構築ができたこと好評でした。



【診療放射線学研究科博士後期課程吉田達也さんの学会表彰について】

診療放射線学研究科 教授 佐々木 浩二

大学院診療放射線学研究科 博士後期課程1年の吉田達也さんが、4月14日～17日に横浜市で開催された第78回日本放射線技術学会総会学術大会において研究成果を発表し、学会賞 Bronze Awardを受賞されました（受賞演題：Evaluation of Crystalline Lens Exposure Dose Depending on Field Size in kV-CBCT）。日本全国の研究者が研究成果を発表するこの学術大会において受賞されたことはとても誇れることです。社会人大学院生として仕事との両立を図りながら研究を継続した成果が高く評価されました。今後も本学大学院から医療に貢献できる研究成果を継続して発信していきたいと考えています。



吉田さんと表彰状



学生によるボランティア活動の報告

新型コロナウイルス感染症により、中断・縮小していた学生ボランティア活動が少しずつ戻って参りました。地域環境の美化や子ども達の夏の思い出作りに汗を流す学生達をご紹介します！

【桃の木リバーを愛する会】

代表 診療放射線学部 3年 中村 陸人

桃の木リバーを愛する会は平成21年から活動しているボランティアグループです。例年、桃の木川沿いの花の苗植えや草刈り等の環境美化活動に取り組んでいます。今年は、感染症拡大防止を徹底しつつ、参加者18名で苗植えを行いました。また、活動を通して下沖町自治会の地域の皆様とも交流を行っています。



【第48回ホリデーインまえばし】 開催：8月21日(日) 会場：前橋敷島公園



*撮影時のみマスクを外しています→



コロナ禍により3年ぶりの開催となったホリデーインまえばしに本学ボランティアサークルの皆さんが参加し、オリジナルカンバジコーナーを出展しました。当日は親子連れなど450名がコーナーを訪れ、気持ちの良い緑の木陰でお絵かきを楽しみながら、素敵なカンバジを作りました。参加してくれた子どもたちや学生の皆さんの笑顔が輝く、素敵な一日となりました。

看護師特定行為研修課程からのお知らせ

特定行為区分別科目を追加履修する受講生を募集します！

【対象者】 本学又は他の指定研修機関で特定行為研修を修了した者

【出願期間】 令和4年11月9日(水)～11月22日(火)

【試験期日】 令和4年12月9日(金)

令和5年度より『**血糖コントロールに係る薬剤投与関連**』が加わります。詳細は、本学ホームページをご覧ください。

New

追加履修
できる区分

血糖コントロールに係る**薬剤投与関連**、栄養及び水分管理に係る**薬剤投与関連**、呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連

報告

オープンキャンパスを開催しました

8月6日・7日の2日間、3年ぶりに大学内でのオープンキャンパスを開催しました。新型コロナウイルス感染対策のため事前申込み制とし、人数を制限しての開催となりました。

本学学生のご案内によるキャンパスツアーでは、図書館や教室、模擬授業・演習を見学していただきました。当日参加できなかった皆さんには、Web会議システムによる個別相談会のほか、当日の様子を撮影したWeb動画を制作して後日視聴いただきました。



診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー

日本診療放射線技師会・
群馬県診療放射線技師会 共催



4月24日(日)、本学多目的ホールにおいて新人診療放射線技師を対象にした「診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー」を開催しました(参加者19名)。本学から米持講師を派遣し、エチケット・マナー講座、医療コミュニケーション、医療安全、感染対策、被ばく低減などの講義を行いました。自らのスキルを再確認するとともに、新たな知識や技術を習得する良い機会となりました。

第1回 公開講座を開催しました

「ご存じですか? “保健所の仕事” ～どんな時に頼ればいいのか・頼れるの?～」



講師:公益財団法人群馬県生活衛生営業指導センター 経営指導員
(元渋川保健所危機管理専門官) 川崎 英弘

地域で生活する人々が、健康で安心して生活できるよう活動している「保健所の仕事」について、現場の事例を挙げて分かりやすく説明してくださいました。

お知らせ

出前講座のご案内

本学の教員を、地域や団体の集会に講師として呼んでみませんか?
一部の講座はWeb開催も可能です。詳しくは本学Webページをご覧ください。

附属図書館 学外者への利用を再開しました!

予約なしで利用が可能です。図書館カレンダーをご確認の上、お越しください。館内をご利用の際は、図書館HPにあります「健康状態申告書」へのご記入をお願いいたします。

発行:群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL:027-235-1211 FAX:027-235-2501 URL:<https://www.gchs.ac.jp/>



特集：ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業

令和3年度、文部科学省より大学改革推進等補助金「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる 医療人材養成事業」の交付を受け、VR（バーチャルリアリティー）機器やシミュレーションルームの整備を行いました。看護学部1年生はこれらを用いて多角的かつ実際の情報収集技術やコミュニケーション技術等を学んでいます。



シミュレーター人形を使ったデモンストレーション



デモンストレーションのオンライン中継

授業「環境を整える技術」では、作成したVR教材を使用し入院環境を疑似体験しました。「実際にその場にいるような感覚で観察できてわかりやすかった」等の感想がありました。授業「傾聴と質問技法」や「情報収集の技術」では、教室とシミュレーションルームをオンラインで繋ぎ、学生は看護師を演じる教員と模擬患者との相談場面や患者シミュレーターの腹部の聴診や触診を行っている場面を観察、質問しました。「リアルタイムでデモンストレーションがあったのでわかりやすかった」や「見たいところがアップになりわかりやすかった」等の感想がありました。

事業実施部会

報告：研修の開催、イベントへの参加、表彰、院生・修了生の活躍

【診療放射線技師法改正に伴う告示研修の開催】

診療放射線技師の業務を見直す法改正に伴い、令和6年4月1日以前の免許取得者は厚労大臣指定研修の受講が義務付けられました。このうち、造影剤等の投与を目的とした静脈確保、注入装置への造影剤の接続、消化管検査で挿入されたカテーテルからの造影剤の注入・吸引やカテーテル抜去など実技研修については、本学を会場に年間6回程度開催します。

診療放射線技師の業務拡大と安全性の向上に向けて、本学教員が研修の運営や調整に携わっています。

群馬県診療放射線技師会
日本診療放射線技師会 共催



1月22日に本学で行われた
静脈確保実技演習の様子

【がん征圧チャリティーイベントに学生・教職員が参加しました】



会場: ALSOKぐんま総合スポーツセンター
開催: R4年10月8日

今回で10周年となるリレー・フォー・ライフジャパンぐんまに、学生・教員12名が参加しました。他校の学生や約1000名の参加者と協力し、ルミナリエの設置を行いました。がん予防に向けたメッセージを手に明るい笑顔でリレーを繋ぎ、闘病者へのエールを送りました。ルミナリエに書かれた闘病者や家族の想いに触れることで、看護職を目指す熱意が高まるとともに、がん予防や早期発見の大切さを学ぶことができました。

【前橋市市政功労者表彰の受賞について】

診療放射線学部の杉野雅人准教授が、前橋市放射線管理アドバイザーとして長年にわたり前橋市の保健衛生行政に協力され、市政発展に貢献した功績から、「前橋市市政功労者表彰」を受賞しました。



杉野雅人准教授

【大学院修了生が認定看護管理者（CNA）認定審査に合格しました】



牛込綾子さん

看護学研究科博士前期課程、看護管理者キャリア開発コース修了により、認定審査の受験資格を得た牛込綾子さんが、日本看護協会認定看護管理者（CNA）認定審査に合格しました。質の高い医療サービスの提供に向けて、所属組織の課題解決や連携の向上を図るとともに、県立病院や県内地域全体の医療の質向上に向けて、今後の活躍が期待されます。

【大学院診療放射線学研究科生が北米放射線学会で表彰されました】

第108回北米放射線学会において、本学大学院診療放射線学研究科博士前期課程1年生の及川憩人さんが「Development of A Training Simulator of Plain Radiography Using Augmented Reality Technology」の学術発表を行い、「Certificate of Merit」を受賞しました。

共同演者：診療放射線学部 寺下貴美准教授 小倉敏裕教授 佐藤哲大准教授



及川憩人さん(中央)

お知らせ

◆本学教員による「出前講座」をご活用ください

皆様の健康などに役立つ様々な講座を用意しています。講師の派遣は無料です。是非ご活用ください。

◆「公開授業」再開のご案内

群馬県の文化や、人間の発達と健康などに関する授業の公開を再開します。

◆「看護研究セミナー」の受講生を募集します

県内の保健医療関係職の方を対象に、看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を習得するためのセミナーを開催します。



詳細は本学ホームページをご覧ください。

発行：群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL: 027-235-1211 FAX: 027-235-2501 URL: <https://www.gchs.ac.jp/>

II

その他の 地域貢献活動

学会活動

【看護学部】

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加名数 |
|----|--------|-------------------------------|----------------|-----------|------|-----------|------|
| 教授 | 山下 暢子 | 日本看護教育学会指名理事 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 山下 暢子 | 日本看護教育学会編集委員会委員長 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 山下 暢子 | 日本看護教育学会第31回学術集会 企画局長・実行委員 | 日本看護教育学会 | 令和4年8月20日 | 前橋 | 看護職者 | 305名 |
| 教授 | 山下 暢子 | 日本看護教育学会評議員 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 山下 暢子 | 日本看護教育学会専任査読者 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 山下 暢子 | 日本看護研究学会評議員 | 日本看護研究学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 山下 暢子 | 日本看護研究学会専任査読者 | 日本看護研究学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 行田 智子 | 日本看護研究学会専任査読委員 | 日本看護研究学会 | 令和4年度 | - | 日本看護研究学会員 | - |
| 教授 | 行田 智子 | 日本助産学会専任査読委員 | 日本助産学会 | 令和4年度 | - | 日本助産学会員 | - |
| 教授 | 行田 智子 | 日本看護研究学会評議員 | 日本看護研究学会 | 令和4年度 | - | 日本看護研究学会員 | - |
| 教授 | 行田 智子 | 日本看護研究学会50周年記念行事WG | 日本看護研究学会 | 令和4年度 | - | 日本看護研究学会員 | - |
| 教授 | 狩野 太郎 | 群馬県がん看護研究会 地域貢献活動担当理事 | 群馬県がん看護研究会 | 令和4年度 | - | 看護師 | - |
| 教授 | 狩野 太郎 | 日本がん看護学会 代議員 | 日本がん看護学会 | 令和4年度 | - | 学会員 | - |
| 教授 | 狩野 太郎 | 日本がん看護学会 査読委員 | 日本がん看護学会 | 令和4年度 | - | 看護師 | - |
| 教授 | 廣瀬 朝代美 | 日本看護科学学会 代議員 | 日本看護科学学会 | 令和4年度 | 東京 | 学会員 | - |
| 教授 | 廣瀬 朝代美 | 日本がん看護学会 代議員 | 日本がん看護学会 | 令和4年度 | 東京 | 学会員 | - |
| 教授 | 廣瀬 朝代美 | 日本がん看護学会 査読委員 | 日本がん看護学会 | 令和4年度 | 東京 | 学会員 | - |
| 教授 | 高井 ゆかり | 研究活動推進委員会委員 研究論文表彰委員会委員 | 日本老年看護学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 高井 ゆかり | 代議員 | 日本運動器疼痛学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 高井 ゆかり | 評議員 | 日本慢性疼痛学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 高井 ゆかり | 代議員 国際活動推進委員会委員 和文誌専任査読委員 | 日本看護科学学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 高井 ゆかり | 評議員 和文誌編集委員 | 日本看護研究学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 高井 ゆかり | 総務委員会委員 専任査読者 | 日本エンドオブライフケア学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 大澤 真奈美 | 日本産業衛生学会 代議員 | 日本産業衛生学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 大澤 真奈美 | 日本看護科学学会 代議員 | 日本看護科学学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 大澤 真奈美 | 日本地域看護学会 代議員 | 日本地域看護学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 大澤 真奈美 | 日本公衆衛生看護学会 代議員 | 日本公衆衛生看護学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 大澤 真奈美 | 日本看護科学会 和文誌 専任査読委員 | 日本看護科学学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 大澤 真奈美 | 日本地域看護学会誌 査読委員 | 日本地域看護学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 大澤 真奈美 | 日本公衆衛生看護学会誌 査読委員 | 日本公衆衛生看護学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 大澤 真奈美 | 日本ルーラルナース学会 査読委員 | 日本ルーラルナース学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 大澤 真奈美 | 千葉看護学会誌 専任査読者 | 千葉看護学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 大澤 真奈美 | 日本看護学会抄録選考査読 | 日本看護協会 | 令和4年度 | - | - | - |

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加名数 |
|-----|-------|---|-------------------|-----------------|-------------------|------------------|-------|
| 教授 | 飯田 苗恵 | 日本看護科学学会 代議員 | 日本看護科学学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 飯田 苗恵 | 日本看護科学学会 和文誌専任査読委員 | 日本看護科学学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 飯田 苗恵 | 日本難病看護学会 理事・代議員 教育推進委員会 委員長 | 日本難病看護学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 飯田 苗恵 | 日本難病看護学会 難病看護認定実行委員会 委員 | 日本難病看護学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 飯田 苗恵 | 日本難病看護学会 選学管理委員会 委員長 | 日本難病看護学会 | 令和5年12月～3月 | - | - | - |
| 教授 | 飯田 苗恵 | 日本在宅看護学会 委員 | 日本在宅看護学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 准教授 | 服部 美香 | 日本看護教育学会 評議員 | 日本看護教育学会 | 令和元年度～4年度 | - | - | - |
| 准教授 | 服部 美香 | 日本看護教育学会第31回学術集会 記録係責任者 | 日本看護教育学会 | 令和3年12月～令和4年10月 | 群馬 | 看護職者 | 約300名 |
| 准教授 | 上山 真美 | 日本プライマリ・ケア連合学会 編集委員会委員 | 日本プライマリ・ケア連合学会 | 令和4年度 | Zoom、メール等 | - | - |
| 准教授 | 上山 真美 | 日本老年泌尿器科学会 評議員 | 日本老年泌尿器科学会 | 令和4年度 | 山梨 | - | - |
| 准教授 | 上山 真美 | 日本看護リハビリテーション学会 査読委員 | 日本看護リハビリテーション学会 | 令和4年度 | メール等 | - | - |
| 准教授 | 上山 真美 | 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 査読委員 | 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 | 令和4年度 | メール等 | - | - |
| 准教授 | 上山 真美 | 高齢者排尿ガイドライン作成チームメンバー | 日本看護科学学会 | 令和4年度 | Zoom、メール等 | - | - |
| 准教授 | 上山 真美 | 生涯学生支援委員会委員 | 日本老年看護学会 | 令和4年度 | Zoom、メール等 | - | - |
| 准教授 | 上山 真美 | 看護師部会 看護学生・看護師キャリアア 支援部門委員 | 日本プライマリ・ケア連合学会 | 令和4年度 | Zoom、メール等 | - | - |
| 准教授 | 金谷 悦子 | 日本看護教育学会会計理事 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 准教授 | 金谷 悦子 | 日本看護教育学会編集委員 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 准教授 | 金谷 悦子 | 日本看護教育学会第31回学術集会 企画・実行委員 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | 前橋 (ハイブリッ ド開催) | 看護職者 | 305名 |
| 准教授 | 金谷 悦子 | 日本看護教育学会第31回学術集会 基調講演者 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | 前橋 (ハイブリッ ド開催) | 看護職者 | 305名 |
| 准教授 | 金谷 悦子 | 日本看護教育学会第5回定例会発表者 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | 前橋 (ハイブリッ ド開催) | 学会員、看護職者 | 17名 |
| 講師 | 垣上 正裕 | 日本看護教育学会第31回学術集会 企画委員 (会場係) | 日本看護教育学会 | 令和4年8月20日 | 前橋 | 看護職者 | |
| 講師 | 高橋 裕子 | 日本看護教育学会第31回学術集会 企画委員 (会計責任者) | 日本看護教育学会 | 令和4年8月20日 | 前橋 | 看護職者 | |
| 講師 | 高橋 裕子 | 日本看護教育学会 編集委員 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | リモート会議 | 看護職者 | |
| 講師 | 高橋 裕子 | 群馬思春期研究会 理事 | 群馬思春期研究会 | 令和4年度 | 群馬 | 看護職者・医師 養護教諭 | |
| 講師 | 高橋 裕子 | 群馬思春期研究会特別講演会 [子どもたちと一緒に考えるオイワ流 性の多様性の授業] | 群馬思春期研究会 | 令和4年11月12日 | 群馬県立県民健康 科学大学 | 看護職者・医師 養護教諭等 | 約100名 |
| 講師 | 高橋 裕子 | 群馬思春期研究会特別講演会 思春期のメンタルヘルスを支えるー「自己存在」に着目してー | 群馬思春期研究会 | 令和5年1月21日 | 群馬県立県民健康 科学大学 | 看護職者・医師 養護教諭等 | 約100名 |

II-1. 学会活動

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加名数 |
|----|-------|---|----------|--------------------------------------|----------------------|---------------|-------|
| 助教 | 和田 卓磨 | 第31回学術集会企画委員・実行委員 | 日本看護教育学会 | 令和4年8月20日～ 9月7日(オンデマ ンド配信期間含む) | 群馬・オンライン | 看護職者・ 看護学生 | 約300名 |
| 助教 | 和田 卓磨 | 第31回学術集会シンポジスト [副看護師長として直面した問題と問題克服 に向けた研究遂行] | 日本看護教育学会 | 令和4年8月20日～ 9月8日(オンデマ ンド配信期間含む) | 群馬・オンライン | 看護職者・ 看護学生 | 約300名 |
| 講師 | 富永 明子 | 日本看護教育学会第31回学術集会 企画委員・実行委員 | 日本看護教育学会 | 令和4年8月20日～ 9月7日(オンデマ ンド配信期間含む) | 群馬・オンライン | 看護職者・ 看護学生 | 約300名 |
| 講師 | 富永 明子 | 日本看護教育学会 評議員 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | — | — | — |
| 講師 | 富永 明子 | 日本看護教育学会第6回定例会発表者 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | 前橋 (ハイブリッ ド開催) | 学会員、 看護職者 | 16名 |
| 教授 | 宮崎有紀子 | 日本健康学会 評議員 | 日本健康学会 | 令和4年度 | — | — | — |
| 教授 | 横山 京子 | 日本看護教育学会 評議員 | 日本看護教育学会 | 令和4年度 | — | — | — |
| 教授 | 横山 京子 | 千葉看護学会公誌 専任査読者 | 千葉看護学会 | 令和4年度 | — | — | — |
| 教授 | 横山 京子 | 日本看護教育学会第31回学術集会 企画委員(会計係)・実行委員(会場係) | 日本看護教育学会 | 令和4年8月20日～ 9月7日(オンデマ ンド配信期間含む) | 群馬・オンライン | 看護職者・ 看護学生 | 約300名 |

【診療放射線学部】

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加名数 |
|----|-------|---------------------------------------|--------------|--------------------------------------|--------|-------------------------------|-------|
| 教授 | 下瀬川正幸 | 2022年度関東甲信越診療放射線技術師学術大 会 教育講演座長 | 群馬県診療放射線技術師会 | 令和4年6月26日 | Gメッセ群馬 | 診療放射線技術師 | 約100名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 日本消化管CT技術学会 令和4年度臨時理 事会 | 日本消化管CT技術学会 | 令和3年6月11日 | WEB | 大学教員、放射 線技術師 | 10名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 医用画像情報学会 (MII) 第193,194,195 回大会理事會 | 医用画像情報学会 | 令和4年6月5日、 令和4年10月1日、 令和5年2月11日 | WEB | 大学教員、医師、 放射線技術師 | 39名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 医用画像情報学会 (MII) 第193,194,195 回大会運営 | 医用画像情報学会 | 令和4年6月5日、 令和4年10月1日、 令和5年2月11日 | WEB | 大学教員、医師、 放射線技術師 | 150名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 第20回日本消化管CT技術学会開催運営 | 日本消化管CT技術学会 | 令和4年6月18日 | WEB | 大学教員、医師、 放射線技術師、 放射線技術師 | 8名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 日本消化管CT技術学会第20回総会・学 術集会 令和4年度理事會 | 日本消化管CT技術学会 | 令和4年6月18日 | 熊本城ホール | 大学教員、医師、 放射線技術師、看 護師 | 200名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 日本消化管CT技術学会編集委員会編集 | 日本消化管CT技術学会 | 令和4年度 | WEB | 大学教員、放射 線技術師 | 5名 |

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加名数 |
|----|-------|--|--|-------------|------------------|-------------------|-------|
| 教授 | 小倉 敏裕 | 日本消化管CT技術学会月例会議 | 日本消化管CT技術学会 | 令和4年毎月第3火曜日 | WEB | 大学教員、医師、放射線技師、看護師 | 8名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 看護理工学会評議委員会 | 看護理工学会 | 令和4年10月14日 | WEB | 大学教員、医師、放射線技師、看護師 | 30名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 第6回CT Colonography Webinar企画打合せおよび開催 | 日本消化管CT技術学会 | 令和4年12月22日 | WEB | 大学教員、放射線技師 | 8名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 日本消化管CT技術学会誌 査読 | 日本消化管CT技術学会 | 令和4年度 | | | |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 第6回CT Colonography Webinar企画打合せおよび開催 | 日本消化管CT技術学会、イーザイ株式会社 | 令和4年10月25日 | WEB | 大学教員、放射線技師 | 8名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 第5回CT Colonography Webinar | 日本消化管CT技術学会、イーザイ株式会社 | 令和5年9月29日 | WEB | 大学教員、放射線技師 | 315名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 第6回CT Colonography Webinar | 日本消化管CT技術学会、イーザイ株式会社 | 令和5年3月23日 | WEB | 大学教員、放射線技師 | 350名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 第6回CT Colonography Webinar企画打合せおよび開催 | 日本消化管CT技術学会、イーザイ株式会社 | 令和4年8月25日 | WEB | 大学教員、放射線技師 | 8名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 日本消化管VR学会令和4年度評議員会 | 日本消化管VR学会 | 令和5年1月21日 | WEB | 大学教員、医師、放射線技師 | 15名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 第5回日本消化管Virtual Reality学会総会・学術集会 | 日本消化管VR学会 | 令和5年1月21日 | 順天堂大学有山登メモリアルホール | 大学教員、医師、放射線技師、看護師 | 100名 |
| 教授 | 佐々木浩二 | 群馬放射線腫瘍研究会 世話人 | 群馬放射線腫瘍研究会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 佐々木浩二 | 日本医学物理学会 代議員 | 日本医学物理学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 佐々木浩二 | 日本医学物理学会 QA/QC委員会委員 | 日本医学物理学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 佐々木浩二 | 日本放射線技術学会 プログラム委員会委員 | 日本放射線技術学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 佐々木浩二 | Journal of Radiation Research Associate Editor | The Japan Radiation Research Society and Japanese Society for Radiation Oncology | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 佐々木浩二 | Journal of Radiation Research 査読者 | The Japan Radiation Research Society and Japanese Society for Radiation Oncology | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 瀬川 篤記 | 第76回群馬臨床細胞学会総会・学術集会 | 群馬臨床細胞学会 | 令和4年度 | 前橋(本学大講義室) | 医師、臨床検査技師、本学教職員 | 約200名 |
| 教授 | 大崎 洋充 | 群馬県核医学研究会 世話人 | PDRフアーマ株式会社 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 大崎 洋充 | 臨床画像診断懇話会テリニカル分科会 プログラム委員 | 日本メジフイジックス株式会社 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 大崎 洋充 | 臨床画像診断懇話会 世話人 | 日本メジフイジックス株式会社 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 大崎 洋充 | 日本放射線技術学会 関東支部 関東核医学研究会 幹事 | 日本放射線技術学会 関東支部 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 大崎 洋充 | クリニカルPETフォーラム 世話人 | 日本メジフイジックス株式会社 | 2022年度 | | | |

II-1. 学会活動

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加名数 |
|----|-------|---|--|----------------|------|----------------|------|
| 教授 | 大崎 洋充 | 日本放射線技術学会 査読者 | 日本放射線技術学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 大崎 洋充 | Annals of Nuclear Medicine 査読者 | 日本核医学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 大崎 洋充 | The Tohoku Journal of Experimental Medicine 査読者 | Tohoku University Medical Press | 2022年度 | | | |
| 教授 | 大崎 洋充 | 日本核医学会PET核医学分科会PET撮像標準化・認証合同ワーキンググループ 委員 | 日本核医学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 大崎 洋充 | 日本核医学会PET撮像施設認証制度委員会 委員 | 日本核医学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 大崎 洋充 | 日本放射線技術学会 標準・規格委員会 | 日本放射線技術学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 大崎 洋充 | 日本核医学専門技師認定試験委員 | 日本核医学専門技師認定機構 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 大崎 洋充 | 関東脳核医学研究会 世話人 | 日本メジフイジック株式会社 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 大崎 洋充 | 第98回日本核医学会関東甲信越地方大会 大会長 | 日本核医学会 | 2023年1月28日 | web | 医師・診療放射線技師 | 約80名 |
| 教授 | 大崎 洋充 | 日本核医学技術学会 評議員 | 日本核医学技術学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | 日本放射線技術学会第78回総会学術大会 座長、司会 | 日本放射線技術学会 | 2022/4/14-4/17 | 横浜 | 診療放射線技師、研究者 | |
| 教授 | 林 則夫 | 第50回日本磁気共鳴医学会大会 シンポジウム講師 | 日本磁気共鳴医学会 | 2022/9/9-9/11 | 名古屋 | 医師、診療放射線技師、研究者 | |
| 教授 | 林 則夫 | 日本放射線技術学会第50回秋季学術大会 ワークショップ講師 | 日本放射線技術学会 | 2022/10/7-10/9 | 東京 | 診療放射線技師、研究者 | |
| 教授 | 林 則夫 | 医用画像情報学会令和3年度春季(第195回)大会 座長 | 医用画像情報学会 | 2023/2/11 | 名古屋 | 診療放射線技師、研究者 | |
| 教授 | 林 則夫 | 日本放射線技術学会 撮影部会委員 | 日本放射線技術学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | 日本放射線技術学会 国際戦略委員会委員 | 日本放射線技術学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | 日本放射線技術学会 プログラム委員会委員 | 日本放射線技術学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | 日本放射線技術学会 代議員 | 日本放射線技術学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | 日本放射線技術学会 学術推進員 | 日本放射線技術学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | 医用画像情報学会 常務理事 | 医用画像情報学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | The International Society for MR Radiographers & Technologists (ISMRT) National Chapters Committee 委員 | The International Society for MR Radiographers & Technologists (ISMRT) | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | The International Society for MR Radiographers & Technologists (ISMRT) Annual Meeting Program Committee (AMPC) 委員 | The International Society for MR Radiographers & Technologists (ISMRT) | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | 研究会 幹事 | 群馬MR研究会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | 研究会 代表世話人 | 群馬Gyro Users Meeting | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | 研究会 幹事 | 群馬CTMRI研究会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | 研究会 幹事 | 群馬MR医学研究会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | Radiological Physics and Technology 誌 ゲストエディタ、査読者 | 日本放射線技術学会 | 2022年度 | | | |

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加名数 |
|-----|-------|---|-------------------------------|------------------------|------------------------|----------------------|-------|
| 教授 | 林 則夫 | Magnetic Resonance in Medical Sciences誌 査読者 | 日本磁気共鳴医学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | 日本放射線技術学会雑誌 査読者 | 日本放射線技術学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 林 則夫 | 医用画像情報学会雑誌 査読者 | 医用画像情報学会 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 原 孝光 | 世話人 | 福島県核医学研究会 | 令和4年度 | | | |
| 教授 | 原 孝光 | 論文査読 | Journal of radiation research | 令和4年度 | | | |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 令和3年度 群馬県がん検診エックス線線撮影従事者講習会の運営 | 一般社団法人群馬県診療放射線技師会 | 令和4年10月11日、11月8日、12月6日 | 本学 公益財団法人群馬県健康づくり財団 | 診療放射線技師 | 延67名 |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 日本放射線力ウンセリング学会 副会長・理事・倫理委員長・RC委員長・学術委員長・副編集委員長・査読委員・相談員 | 日本放射線力ウンセリング学会 | 令和4年度 | - | 診療放射線技師 | - |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 群馬県診療放射線技師会 副会長・常務理事 | 一般社団法人群馬県診療放射線技師会 | 令和4年度 | - | 診療放射線技師 | - |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 日本診療放射線技師会 代議員・医療被ばく安全管理委員・放射線被ばく相談員分科会長・査読委員・認定資格委員 | 一般社団法人日本診療放射線技師会 | 令和4年度 | - | 診療放射線技師 | - |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 日本医療マネジメント学会 群馬県支部幹事 | 日本医療マネジメント学会群馬県支部 | 令和4年度 | - | 県内医療従事者 | - |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 大山人間科学研究会 理事長 | 大山人間科学研究会 | 令和4年度 | - | 心理学研究者等 | - |
| 准教授 | 川村 拓 | 日本放射線技術教育学会理事 | 日本放射線技術教育学会 | 令和3年9月17日 | 神戸国際会議場307 | 大学教員、放射線技師 | 4名 |
| 准教授 | 川村 拓 | 日本診療放射線技師会査読者 | 日本診療放射線技師会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 准教授 | 川村 拓 | 日本診療放射線技師会 臨床実習指導教育委員 | 日本診療放射線技師会 | 令和4年度 | Web | - | 7名 |
| 准教授 | 川村 拓 | 日本診療放射線技師会 臨床実習施設分科会委員 | 日本診療放射線技師会 | 令和4年度 | Web | - | 6名 |
| 准教授 | 川村 拓 | 日本放射線技術学会誌査読者 | 日本放射線技術学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 准教授 | 川村 拓 | Radiological Physics and Technology誌 査読者 | 日本医学物理学会・日本放射線技術学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 准教授 | 川村 拓 | Japanese Journal of Radiology誌 査読者 | 日本医学放射線学会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 准教授 | 川村 拓 | 研究会 幹事 | 群馬MR研究会 | 令和4年度 | - | - | - |
| 准教授 | 川村 拓 | 研究会 世話人 | 群馬Gyro Users Meeting | 令和4年度 | - | - | - |
| 准教授 | 佐藤 哲大 | 電子情報通信学会和文論文誌D査読委員 | 電子情報通信学会 | 令和4年度 | 本学 | 投稿論文 大学教員等 | 24名 |
| 准教授 | 杉野 雅人 | 日本保健物理学会教員等協議会委員 | 日本保健物理学会 | 令和4年度 | - | 診療放射線技師、 大学教員、学生等 | 4226名 |
| 准教授 | 長島 宏幸 | 第79回日本放射線技術学会総会学術大会 | 日本放射線技術学会 | 2022年4月14日~5月18日 | 横浜 | | |
| 准教授 | 渡部 晴之 | 医用画像情報学会 理事 | 医用画像情報学会 | 令和4年度 | | | |
| 准教授 | 渡部 晴之 | 第78回日本放射線技術学会総会学術大会 座長 | 日本放射線技術学会 | 令和4年度 | 横浜 | 大学教員、放射線技師、学生 | 100名 |
| 准教授 | 渡部 晴之 | 第50回日本放射線技術学会秋季学術大会 座長 | 日本放射線技術学会 | 令和4年度 | 東京 | 大学教員、放射線技師、学生 | 50名 |
| 准教授 | 渡部 晴之 | 第10回コニカミノルタ科学技術振興財団助成事業 深層学習実践セミナー 運営 | 医用画像情報学会 | 令和4年度 | 新潟 | 大学教員、放射線技師、学生 | 20名 |
| 准教授 | 渡部 晴之 | 日本消化管CT技術学会誌 査読 | 日本消化管CT技術学会 | 令和4年度 | | | |

II-1. 学会活動

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加名数 |
|----|-------|---|-------------------|---------------|------|------------|-------|
| 講師 | 米持 圭太 | 群馬県診療放射線技師会 常務理事・教育部長 | 群馬県診療放射線技師会 | 令和4年度 | - | | |
| 講師 | 米持 圭太 | 日本診療放射線技師会 教育委員 | 日本診療放射線技師会 | 令和4年度 | - | | |
| 講師 | 米持 圭太 | 群馬県核医学研究会 世話人 | 群馬県核医学研究会 | 令和4年度 | - | | |
| 講師 | 米持 圭太 | 臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 プログラム委員(世話人兼務) | 臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 | 令和4年度 | - | | |
| 講師 | 米持 圭太 | 群馬県庁放射線技師会 地区幹事・学術部員 | 群馬県庁放射線技師会 | 令和4年度 | - | | |
| 講師 | 米持 圭太 | 2022年度関東甲信越診療放射線技師学術大会(群馬県)実行委員(学術委員長) | 群馬県診療放射線技師会 | 令和3年5月~令和4年6月 | 群馬 | 診療放射線技師 | |
| 講師 | 米持 圭太 | 診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー(令和4年度)運営・講師 | 群馬県診療放射線技師会 | 令和4年4月24日 | 群馬 | 診療放射線技師 | 19名 |
| 講師 | 米持 圭太 | 第71回群馬核医学研究会 企画 | 群馬県核医学研究会 | 令和4年5月24日 | Web | 医師・診療放射線技師 | 約50名 |
| 講師 | 米持 圭太 | 2022年度関東甲信越診療放射線技師学術大会(群馬県)実行委員(学術委員長) | 群馬県診療放射線技師会 | 令和4年6月25~26日 | 群馬 | 診療放射線技師 | 約500名 |
| 講師 | 米持 圭太 | 第34回臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 企画 令和3年厚生労働省告示第273号研修における実技研修プログラム(第1回群馬県開催) 開催担当者 | 臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 | 令和4年6月29日 | Web | 診療放射線技師 | 約30名 |
| 講師 | 米持 圭太 | 令和3年厚生労働省告示第273号研修における実技研修プログラム(第2回群馬県開催) 開催担当者 | 日本診療放射線技師会 | 令和4年7月30日 | 群馬 | 診療放射線技師 | 44名 |
| 講師 | 米持 圭太 | 令和3年厚生労働省告示第273号研修における実技研修プログラム(第3回群馬県開催) 開催担当者 | 日本診療放射線技師会 | 令和4年7月31日 | 群馬 | 診療放射線技師 | 44名 |
| 講師 | 米持 圭太 | 令和3年厚生労働省告示第273号研修における実技研修プログラム(第4回群馬県開催) 開催担当者 | 日本診療放射線技師会 | 令和4年10月29日 | 群馬 | 診療放射線技師 | 45名 |
| 講師 | 米持 圭太 | 令和3年厚生労働省告示第273号研修における実技研修プログラム(第5回群馬県開催) 開催担当者 | 日本診療放射線技師会 | 令和4年10月30日 | 群馬 | 診療放射線技師 | 45名 |
| 講師 | 米持 圭太 | 第35回臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 企画 令和3年厚生労働省告示第273号研修における実技研修プログラム(第6回群馬県開催) 開催担当者 | 臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 | 令和5年1月18日 | Web | 診療放射線技師 | 約30名 |
| 講師 | 米持 圭太 | 令和3年厚生労働省告示第273号研修における実技研修プログラム(第5回群馬県開催) 開催担当者 | 日本診療放射線技師会 | 令和5年1月21日 | 群馬 | 診療放射線技師 | 44名 |
| 講師 | 米持 圭太 | 令和3年厚生労働省告示第273号研修における実技研修プログラム(第6回群馬県開催) 開催担当者 | 日本診療放射線技師会 | 令和5年1月22日 | 群馬 | 診療放射線技師 | 46名 |
| 講師 | 米持 圭太 | 診療放射線技師基礎技術講習 基礎技術コース「MRI検査」企画・運営 | 群馬県診療放射線技師会 | 令和5年2月12日 | 群馬 | 診療放射線技師 | 46名 |
| 助教 | 丸山 星 | 群馬県診療放射線技師会 理事 | 群馬県診療放射線技師会 | 令和4年度 | - | | |
| 助教 | 丸山 星 | 日本診療放射線技師会 業務改善推進委員会 北関東地域委員 | 日本診療放射線技師会 | 令和4年度 | - | | |
| 助教 | 丸山 星 | 2022年度関東甲信越診療放射線技師学術大会(群馬県)実行委員 | 群馬県診療放射線技師会 | 令和3年5月~令和4年6月 | 群馬 | 診療放射線技師 | |
| 助教 | 丸山 星 | 2022年度関東甲信越診療放射線技師学術大会(群馬県)実行委員 | 群馬県診療放射線技師会 | 令和4年6月25~26日 | 群馬 | 診療放射線技師 | 約500名 |
| 助教 | 丸山 星 | 2022年度関東甲信越診療放射線技師学術大会(群馬県)「学生セッションI」座長 | 群馬県診療放射線技師会 | 令和4年6月25日 | 群馬 | 診療放射線技師 | 約50名 |

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|-----|-------|---|--------------------|----------|------|----------------|------|
| 准教授 | 高橋 哲彦 | (一社) 日本磁気共鳴医学会代議員 | (一社) 日本磁気共鳴医学会 | 令和元年～現在 | - | 医学・工学研究者、放射線技師 | - |
| 准教授 | 高橋 哲彦 | (一社) 日本医用画像工学会代議員 | (一社) 日本医用画像工学会 | 令和3年～現在 | - | 大学教員・研究者 | - |
| 准教授 | 高橋 哲彦 | 研究会 幹事 | 群馬MR研究会 | 令和4年度 | 前橋 | | |
| 准教授 | 高橋 哲彦 | Magnetic Resonance in Medical Sciences誌 査読者 | 日本磁気共鳴医学会 | 令和4年度 | | | |
| 准教授 | 高橋 哲彦 | Academic Radiology 査読者 | Academic Radiology | 令和4年度 | | | |
| 准教授 | 高橋 哲彦 | 第50回日本放射線技術学会秋季学術大会 座長 | 日本放射線技術学会 | 令和4年度 | 東京 | 大学教員、放射線技師、学生 | 50名 |

一般住民・団体を対象とした講演・研修

【看護学部】

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|----|-------|---------------------------|----------------|--------------------|----------------|-------------|------|
| 教授 | 狩野 太郎 | 茨川市認知症サポーターステッパップ研修講師 | 茨川市地域包括支援センター | 令和4年10月5日、25日 | 茨川市持社会体 育館 会議室 | 住民 | 15名 |
| 教授 | 狩野 太郎 | 榛東村認知症サポーターステッパップ研修講師 | 榛東村地域包括支援センター | 令和4年8月4日、24日、29日 | 榛東村保健相談センター | 住民 | 13人 |
| 教授 | 狩野 太郎 | 榛東村上級介護サポーター研修 | 榛東村地域包括支援センター | 令和4年11月11日 | 榛東村保健相談センター | 住民 | 6人 |
| 講師 | 高橋 裕子 | 思春期ピアカウンセリング(前期コース) | 群馬ピアカウンセリング研究会 | 令和4年6月25、26、7月2、3日 | 高崎健康福祉大学 | 大学生 | 約40名 |
| 講師 | 高橋 裕子 | 思春期ピアカウンセリング(後期コース) | 群馬ピアカウンセリング研究会 | 令和5年2月18、19日 | 高崎健康福祉大学 | 大学生 | 約40名 |
| 教授 | 横山 京子 | 学童期の子どもに起こりやすい事故と応急手当・救急法 | 群馬県学童保育連絡協議会 | 令和5年3月12日 | オンライン | 学童保育指導員・保護者 | 約30名 |
| 講師 | 富永 明子 | 学童期の子どもに起こりやすい事故と応急手当・救急法 | 群馬県学童保育連絡協議会 | 令和5年3月12日 | オンライン | 学童保育指導員・保護者 | 約30名 |
| 講師 | 久保 仁美 | 学童期の子どもに起こりやすい事故と応急手当・救急法 | 群馬県学童保育連絡協議会 | 令和5年3月12日 | オンライン | 学童保育指導員・保護者 | 約30名 |

【診療放射線学部】

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|----|----------|---|--------------------|-------------------|-----------------------------|---------|------|
| 教授 | 大崎 洋充 | 令和4年度 第2回公開講座 「聞いてなっとく！画像診断技術ーMR・核医学検査って何？」 | 群馬県立県民健康科学大学 | 令和4年11月10日～12月12日 | 群馬県立県民健康科学大学 (Youtubeによる配信) | 住民 | 237人 |
| 教授 | 大崎 洋充 | 第45回キヤノンガンマカメラ研究会 | キヤノンメディカルシステムズ株式会社 | 令和4年7月2日 | web (Zoom) | 診療放射線技師 | 約50名 |
| 教授 | 大崎 高橋 哲彦 | 群馬県立伊勢崎清明高等学校 上級学校説明会 | | 令和5年3月23日 | 伊勢崎清明高等学校 校 体育館 | 1-2年生 | 36名 |

II-3. 保健医療専門職を対象とした講演・研修

保健医療専門職を対象とした講演・研修

【看護学部】

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|----|----------|---|--|------------------------|----------------------------|--------------------|--------|
| 教授 | 山下 暢子 | 群馬県実習指導者講習会「看護論」 | 群馬県 | 令和4年5月13日～6月6日 | 群馬県看護協会 | 県内の実習指導者 | 約50名 |
| 教授 | 山下 暢子 | 前橋赤十字病院「新臨床指導者研修会」[看護学実習に関する基礎的知識] | 前橋赤十字病院 | 令和4年6月24日 | 前橋赤十字病院 | 臨床指導者 | 約20名 |
| 教授 | 山下 暢子 | 看護教員養成講習会フォローアップ研修 専任教員としての看護学教育のあり方を再考するー看護学実習に取り組む学生理解に資する知識の理解と活用ー | 新潟県 | 令和4年8月27日 | 新潟県看護協会 | 看護学教員 | 12名 |
| 教授 | 山下 暢子 | 高崎健康福祉大学FD研修会「看護学実習における『看護現象の教材化』」 | 高崎健康福祉大学 | 令和4年9月13日 | 高崎健康福祉大学 | 看護学教員・実習指導者 | 約80名 |
| 教授 | 山下 暢子 | IMS実習指導者講習会「看護論」 | IMSグループ | 令和4年11月27日～12月17日 | 板橋中央看護専門学校 イムス池袋会議室 | 実習指導者 | 約50名 |
| 教授 | 山下 暢子 | 「ウイズコロナ時代に実習に取り組む学生の理解と支援」 | 群馬県民医連看護教育担当者研修会 | 令和5年1月7日 | web開催 | 実習指導者 | 約160名 |
| 教授 | 山下 暢子 | 主体的に学び続ける専門職者を育てるー看護学教育の現場から | 中部リハビリテーション専門学校 | 令和5年3月2日 | TKPガーデンシティPREMIUM名古屋新幹線口 | 理学療法・作業療法実習指導者 | 約50名 |
| 教授 | 行田 智子 | 予防的支援推進とうきょうモデル事業 両親調査(演習)、夫婦への支援方法 | 東京都医学総合研究所 | 令和4年6月23日、6月30日、10月27日 | 東京茗荷谷、新宿ハイジア | 看護職、心理士、ソーシャルワーカー等 | のべ150名 |
| 教授 | 行田 智子 | 養育支援訪問員の養成講座 家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～ | HEALTHY FAMILY はままつ | 令和4年10月29日 | リモートによる講義 | 看護職、保育士等 | 4名 |
| 教授 | 行田 宮崎有紀子 | データ分析をしてみよう! | 群馬県看護協会 | 令和4年8月9日 | 群馬県看護協会 | 看護職 | 45名 |
| 教授 | 狩野 太郎 | 令和4年ぐんま認定介護福祉士養成研修講師「研究方法」[研究活動について] | 群馬県保健福祉部介護高齢課 | 令和4年6月28日、9月29日(Web研修) | 群馬県社会福祉事業団特別養護老人ホーム明風園 研修室 | 介護福祉士 | 24名 |
| 教授 | 狩野 太郎 | 令和4年度認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程(看護情報論) | 群馬県看護協会 | 令和4年11月9日、10日 | 群馬県看護教育センターおよびWeb配信 | 看護師 | 68名 |
| 教授 | 廣瀬規代美 | 研究抄録の書き方と査読基準ー学会発表に向けた研究抄録の作成の基本的知識 | 群馬がん看護研究会教育委員会 | 令和5年1月28日 | 群馬県立県民健康科学大学 | 県内看護師 | 5名 |
| 教授 | 清水 裕子 | 講演・重度認知症の人の苦痛をどう評価するか? | 認知症の緩和ケアに関する研究会 | 令和4年4月17日 | web開催 | 医療福祉専門職者 | 1393名 |
| 教授 | 高井ゆかり | 講演・認知症の緩和ケアって何?後期・終末期の痛みの評価を含めて | 令和4年度群馬県地域医療介護総合確保基金在宅医療等基盤整備事業令和4年度第1回在宅医療塾 | 令和4年6月8日 | web開催 | 医療福祉専門職者 | |
| 教授 | 高井ゆかり | 講演・令和4年度FD研修 研究計画策定および洋雑誌への論文投稿について | 名古屋市立大学 | 令和5年3月16日 | web開催 | 教員 | |

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|-----|-------|---|--------------|-----------------------------------|------------------|-------------|-------------|
| 教授 | 大澤真奈美 | 認定看護管理者教育課程ファーストレベル「ヘルスケアシステム論Ⅰ」 | 群馬県看護協会 | 令和4年9月8日 | 群馬県看護教育センター | 看護職者 | 69名 |
| 教授 | 大澤真奈美 | 群馬県保健師助産師看護師実習指導者講習会「保健師教育課程」 | 群馬県看護協会 | 令和4年5月13日 | 群馬県看護教育センター | 看護職者 | 50名 |
| 教授 | 大澤真奈美 | 保健師職能研修会 事例検討会～実践力UP!研修会 | 群馬県看護協会 | 令和4年10月22日 | 群馬県看護教育センター | 保健師 | 25名 |
| 教授 | 大澤真奈美 | 保健師職能研修会 実践力UP!記録の書き方 | 群馬県看護協会 | 令和4年12月12日 | 群馬県看護教育センター | 保健師 | 25名 |
| 教授 | 飯田 苗恵 | 2022年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル 講師「ヘルスケアシステム論Ⅱ」 【統合演習Ⅱ】 | 群馬県看護協会 | 令和4年7月1日 令和4年9月2日 | 群馬県看護教育センター | 看護管理者 | 約40名 |
| 教授 | 飯田 苗恵 | 令和4年度訪問看護研修(指導者編) 指導方法と評価 講師 | 群馬県看護協会 | 令和4年11月22日 令和5年3月7日 | 群馬県看護教育センター | 訪問看護師 | 約10名 |
| 准教授 | 清水 裕子 | 認定看護管理者教育課程セカンドレベル 【組織マネジメントの実践】 | 群馬県看護協会 | 令和4年6月18日、 22日、24日 | 群馬県看護教育センター | 県内看護職者 | 36名 |
| 准教授 | 清水 裕子 | 新人看護職員研修事業教育担当者研修「教育に関する基礎知識」 | 群馬県看護協会 | 令和4年11月8日 | 群馬県看護教育センター | 県内看護職者 | 20名 |
| 准教授 | 清水 裕子 | ELNEC-J研修会ファシリテーター | 岩手県立大学看護学部 | 令和4年12月10日、 11日 | オンライン | 岩手県近隣看護職者 | 約10名 |
| 准教授 | 清水 裕子 | 「CNSの行う倫理調整(倫理の基本)」 | 岩手県立大学看護学部 | 令和5年2月5日 | オンライン | 岩手県近隣看護職者 | 約10名 |
| 准教授 | 服部 美香 | 群馬県実習指導者講習会「実習評価」 | 群馬県看護協会 | 令和4年6月 | 群馬県看護教育センター | 看護職者 | 約70名 |
| 准教授 | 服部 美香 | 看護研究のサポートー効果的な支援をもたらし看護研究の理解ー | 善衆会病院 | 令和4年7月27日 | 善衆会病院 | 看護師長・副部長・部長 | 11名 |
| 准教授 | 服部 美香 | 認定看護管理者ファーストレベル教育課程 【統合演習Ⅰ】 | 群馬県看護協会 | 令和4年10月～12月 | 群馬県看護教育センター | 看護職者 | 約70名 |
| 准教授 | 服部 美香 | 初めての看護研究(基礎編) | 新潟県看護協会 | 令和4年12月13日 | 新潟県看護研修センター | 看護職者 | 37名 |
| 准教授 | 上山 真美 | 看護研究に関する研修及び研究発表会 | 公立館林厚生病院 | 令和4年5月～3月 | 公立館林厚生病院 | 看護師 | 約20～ 50名 |
| 講師 | 垣上 正裕 | 看護研究における研究テーマの明確化 | 群馬県立精神医療センター | 令和4年5月9日 | 群馬県立精神医療センター | 看護職者 | 40名 |
| 講師 | 小西 美里 | 看護研究における研究テーマの明確化 | 群馬県立精神医療センター | 令和4年5月9日 | 群馬県立精神医療センター | 看護職者 | 40名 |
| 助教 | 和田 卓磨 | 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 【統合演習】ファシリテーター | 群馬県看護協会 | 令和4年9月21日、11月2 日・14日・24日、12月1日 | 群馬県看護協会 | 看護職者 | 約70名 |
| 助教 | 和田 卓磨 | 診療放射線技師厚生労働省告示第273号研修 実技研修講師 | 群馬県診療放射線技師会 | 令和5年1月21日 | 群馬県立県民健康 科学大学 | 診療放射線技師 | 約50名 |
| 講師 | 河内 直美 | 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 【統合演習】ファシリテーター | 群馬県看護協会 | 令和4年9月21日、11月2 日・14日・24日、12月1日 | 群馬県看護協会 | 看護職者 | 約70名 |

II-3. 保健医療専門職を対象とした講演・研修

【診療放射線学部】

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|-----|-------|---|--------------------------------------|---|--------------|------------------|------|
| 教授 | 佐々木浩二 | 放射線治療 医学物理講義 講師 | 磐田市立総合病院 | 令和4年度 | 磐田市立総合病院 | 医学物理士、診療放射線技師、医師 | — |
| 教授 | 原 孝光 | 本学FD研修会講師「本学入試について」 | | 令和4年9月9日 | 本学多目的ホール | 本学教職員 | 21名 |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 認知心理学 知覚を中心に | 日本放射線カウンセリング学会 | 令和4年5月29日 | web開催 | 診療放射線技師 | 125名 |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 放射線被ばく相談員講習会 傾聴訓練指導 | 公益社団法人日本診療放射線技師会 | 令和4年7月10日、12月18日、令和5年2月19日 | web開催 | 診療放射線技師 | 14名 |
| 准教授 | 五十嵐 博 | うつかりミスはなぜ起きる—そのメカニズムと防止対策を考える— | 一般社団法人群馬県診療放射線技師会 | 令和4年11月8日 | 本学多目的ホール | 診療放射線技師 | 10名 |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 傾聴訓練指導 | 日本放射線カウンセリング学会 | 令和5年2月5日 | web開催 | 診療放射線技師 | 75名 |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 被ばく相談に役立つ傾聴技法とそのポイント | 令和4年度近畿地域診療放射線技師学術大会 | 令和5年2月12日 | ピアザ淡海 | 診療放射線技師 | 75名 |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 医療被ばく相談実習 | 令和4年度近畿地域診療放射線技師学術大会 | 令和5年2月12日 | ピアザ淡海 | 診療放射線技師 | 5名 |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 大分県放射線管理セミナー コメンテーター | 公益社団法人大分県診療放射線技師会 | 令和5年2月21日 | web開催 | 診療放射線技師 | 30名 |
| 准教授 | 五十嵐 博 | ノンテフニカルスキルを磨く 医療被ばく相談の基礎 | 2022年度 長野県診療放射線技師会・山梨県診療放射線技師会 合同研修会 | 令和5年3月4日 | 勝沼ぶどうの丘 | 診療放射線技師 | 268名 |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 告示研修 ファシリテーター | 公益社団法人日本診療放射線技師会 | 令和4年7月30日、7月31日、10月29日、10月30日、令和5年1月21日、1月22日 | 本学多目的ホール(ほか) | 診療放射線技師 | 約20人 |
| 講師 | 米持 圭太 | 効果的な臨床実習計画の立案 | 第38回日本診療放射線技師学術大会 | 令和4年9月16日 | 神戸国際会議場 | 診療放射線技師 | 約20人 |
| 助教 | 丸山 星 | 「診療放射線技師の倫理綱領」を知っていますか | 第38回日本診療放射線技師学術大会 | 令和4年9月17日 | 神戸国際会議場 | 診療放射線技師 | 19名 |
| 准教授 | 川村 拓 | 診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー(令和4年度)「エチケット・マナー講座」 | 日本診療放射線技師会 | 令和4年4月24日 | 群馬県立県民健康科学大学 | 診療放射線技師 | 19名 |
| 准教授 | 川村 拓 | 診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー(令和4年度)「医療コミュニケーション」 | 群馬県診療放射線技師会 | 令和4年4月24日 | 群馬県立県民健康科学大学 | 診療放射線技師 | 19名 |
| 講師 | 米持 圭太 | 診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー(令和4年度)「医療被ばくの現状とその低減に向けた取り組み」 | 日本診療放射線技師会 | 令和4年4月24日 | 群馬県立県民健康科学大学 | 診療放射線技師 | 19名 |

行政組織での活動

【看護学部】

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|----|-------|-----------------------------------|----------------------|---------------|-------------|--------------------|-------|
| 教授 | 行田 智子 | 予防的支援推進とうきょうモデル事業アドバイザリーボード委員 | 東京都医学総合研究所 | 令和4年4月～令和5年3月 | 東京都、リモート | 看護職、心理士、ソーシャルワーカー等 | — |
| 教授 | 行田 智子 | 令和4年度子育て講座プログラム検討委員会 | 群馬県児童福祉・青少年課 | 令和5年3月20日 | 群馬県庁 | 看護職等 | 7名 |
| 教授 | 狩野 太郎 | 群馬県がん診療連携拠点病院連絡協議会市民講座企画ワーキングメンバー | 群馬県/群馬県診療連携拠点病院連絡協議会 | 令和4年4月～7月 | 群馬大学医学部附属病院 | 患者・一般市民 | Web配信 |
| 教授 | 高井ゆかり | 群馬県高齢介護推進協議会委員 | 群馬県高齢介護課 | 令和4年度 | — | — | — |
| 教授 | 高井ゆかり | 企画と運営・第4回認知症の緩和ケアに関する研究会 | 認知症の緩和ケアに関する研究会 | 令和5年3月12日 | web開催 | 医療福祉専門職者等 | 1028名 |
| 教授 | 大澤真奈美 | 群馬県アルコール健康障害対策連絡協議会委員 | 群馬県健康福祉部障害政策課 | 令和4年度 | 群馬県庁 | — | — |

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|-----|-------|----------------------------|---------------|------------|-----------------------------|------|------|
| 教授 | 大澤真奈美 | 県民健康・栄養調査企画解析検討委員会 | 群馬県健康福祉部保健予防課 | 令和4年度 | 群馬県庁 | - | - |
| 教授 | 大澤真奈美 | 前橋市介護保険認定審査会 委員 | 前橋市介護保険課 | 令和4年度 | 前橋市役所 | - | - |
| 教授 | 大澤真奈美 | 前橋市自立支援給付認定審査会 委員 | 前橋市障害福祉課 | 令和4年度 | 前橋市保健所 | - | - |
| 教授 | 大澤真奈美 | 前橋市食育推進会議 委員長 | 前橋市健康増進課 | 令和4年度 | 前橋市保健センター | - | - |
| 教授 | 大澤真奈美 | 群馬県開発審査会 委員 | 群馬県国土整備部建築課 | 令和4年度 | 群馬県庁 | - | - |
| 教授 | 大澤真奈美 | 群馬県建築審査会 委員 | 群馬県国土整備部建築課 | 令和4年度 | 群馬県庁 | - | - |
| 教授 | 大澤真奈美 | 群馬県廃棄物処理施設等専門委員会 委員 | 群馬県廃棄物・リサイクル課 | 令和4年度 | 群馬県庁 | - | - |
| 教授 | 大澤真奈美 | 群馬県公害審査会 委員 | 群馬県環境森林部環境保全課 | 令和4年度 | 群馬県庁 | - | - |
| 教授 | 飯田 苗恵 | 前橋市特別養護老人ホーム等設置法人選定委員会副委員長 | 前橋市 | 令和4年度 | 前橋市役所 | - | - |
| 准教授 | 上山 真美 | 前橋市認知症初期集中支援チーム | 前橋市長寿包括ケア課 | 令和4年度 | 前橋市包括支援センター西 部等 対面/リモート等 | - | - |
| 講師 | 垣上 正裕 | 中堅看護教諭資質向上研修 | 群馬県 | 令和4年10月27日 | 群馬県総合教育センター | 看護教諭 | 36名 |
| 講師 | 垣上 正裕 | 高校中堅教諭資質向上研修 | 群馬県 | 令和4年10月 | オンライン・動画 | 高校教諭 | 82名 |
| 教授 | 横山 京子 | 群馬県健康福祉部医学系研究等に係る倫理委員会委員 | 群馬県健康福祉部 | 令和4年度 | 紙面会議 | - | - |

【診療放射線学部】

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|-----|-------|---|--|---------------|--|-----|------|
| 教授 | 原 孝光 | 量子科学技術研究開発機構 量子ビーム科学 学研究部門 高崎量子応用研究所 協力研究 員 | 量子科学技術研究開発機構 量子 ビーム科学研究部門 高崎量子応用 研究所 | 令和4年度 | 量子科学技術研究開発機 構 量子ビーム科学研究 部門 高崎量子応用研究所 | - | - |
| 准教授 | 川村 拓 | 量子科学技術研究開発機構 協力研究員 | 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 | 令和4年度 | - | - | - |
| 准教授 | 川村 拓 | 国立研究開発法人 客員研究員 | 国立研究開発法人 理化学研究所 | 令和4年度 | - | - | - |
| 准教授 | 杉野 雅人 | 環境放射線測定に関する協力研究員 | 国立研究開発法人 量子科学技術研 究機構 福島再生支援研究部 | 令和4年4月~令和5年3月 | 量子科学技術研究 機構 | - | - |
| 准教授 | 杉野 雅人 | 前橋市放射線管理アドバイザー | 前橋市環境部環境森林課 | 令和4年4月~令和5年3月 | - | - | - |
| 准教授 | 杉野 雅人 | みどり市放射線対策アドバイザー | みどり市市民部生活環境課 | 令和4年4月~令和5年3月 | - | - | - |
| 准教授 | 杉野 雅人 | 川場村放射線対策アドバイザー | 川場村役場むらづくり振興課 | 令和4年4月~令和5年3月 | - | - | - |

任意団体での活動

【看護学部】

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|----|-------|----------------|------|----------|------|-----|------|
| 教授 | 行田 智子 | 看護・助産教育支援フォーラム | 倫理委員 | 令和4年度 | - | - | - |

II-5. 任意団体での活動

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|-----|--------|---|-------------------------------|---------------|--------------------|--------------|-------|
| 教授 | 狩野 太郎 | 群馬県がん患者ミーティング2023企画・運営、司会進行 | 群馬県がん患者団体連絡協議会 | 令和4年2月11日 | 前橋けやきウォーク | 患者・一般市民 | 15名 |
| 教授 | 狩野 太郎 | リレーフォーライフジャパン2022ぐんま副実行委員長 | 日本対がん協会、リレーフォーライフジャパンぐんま実行委員会 | 令和4年10月8日 | ALSOKぐんま総合スポーツセンター | 患者・一般市民(ほか) | 1000名 |
| 教授 | 狩野 太郎 | 群馬県がん患者団体連絡協議会 運営委員長 | 群馬県がん患者団体連絡協議会 | 令和4年度 | 群馬県健康づくり財団 | 患者 | |
| 教授 | 廣瀬規代美 | 群馬がん看護研究会 理事兼教育委員会委員長 | 群馬がん看護研究会 | 令和4年度 | 群馬大学他 | 会員等 | |
| 教授 | 大澤真奈美 | 地域看護学教育方法の開発 | 大学間連携による地域看護学教育FD戦略会議 | 令和4年度 | 開催当番大学等 | 大学教員(全国12大学) | 約20名 |
| 准教授 | 鳩生川恵美子 | 中学生の学修支援 | NPO 教育支援北関東 | 令和4年4月~令和5年3月 | 地域公民館 | 中学生 | 約5名 |
| 准教授 | 清水 裕子 | 群馬がん看護研究会 理事兼教育委員 | 群馬がん看護研究会 | 令和4年度 | — | — | |
| 准教授 | 上山 真美 | 群馬コンチネンスフォーラム | 群馬コンチネンスフォーラム幹事 | 令和4年度 | リモート開催 | 医療関係者 | 約50名 |
| 講師 | 垣上 正裕 | 全労働省組合関東地方協議会 ストレス対処法 | 厚労省 | 令和4年7月16日 | 新潟県 | 厚労省職員 | 72名 |
| 講師 | 垣上 正裕 | めぶくビジネススクール | 前橋市他 | 令和5年2月4日 | 前橋工科大学 | 企業経営者 | 約30名 |
| 講師 | 垣上 正裕 | 全労働関東地協全分科会代表会議 ストレス対処法 | 厚労省 | 令和5年2月18日 | 東京都 | 厚労省職員 | 60名 |
| 講師 | 高橋 裕子 | 大学生によるピアエデュケーション「世界に一人だけの私、世界に一人だけのあなた」 | 群馬ピアカウセンリング研究会 | 令和4年9月8日 | 群馬県立聾学校 | 高等部生徒 | 13名 |
| 講師 | 高橋 裕子 | 大学生によるピアエデュケーション「一緒に創ろう未来の道」 | 群馬ピアカウセンリング研究会 | 令和4年12月16日 | 群馬県立太田フレックス高等学校 | 生徒 | 30名 |
| 講師 | 高橋 裕子 | 大学生によるピアエデュケーション「考えよう性のこと-自分と相手を大切に-」 | 群馬ピアカウセンリング研究会 | 令和5年3月8日 | 群馬県立梅田中学校 | 生徒 | 20名 |
| 講師 | 小西 美里 | 定例会における講演「看護学部生に対して教育現場で心がけている事」 | 前橋精神障がい者家族会 あざみ会 | 令和4年11月25日 | 前橋総合福祉会館 | 家族会員 | 約20名 |
| 教授 | 横山 京子 | 群馬県看護協会倫理委員会委員長 | 群馬県看護協会 | 令和4年度 | 群馬県看護協会、Web | — | — |
| 教授 | 横山 京子 | 伊勢崎市民病院経営検討委員会副委員長 | 伊勢崎市民病院経営検討委員会 | 令和5年2月10日 | 伊勢崎市役所 | — | 約30名 |

【診療放射線学部】

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|----|-------|-------------------|----------------------|-----------------|----------|------------|--------|
| 教授 | 下瀬川正幸 | 大学機関別認証評価 評価委員 | 一般財団法人大学教育質保証・評価センター | 令和4年度 | — | — | — |
| 教授 | 下瀬川正幸 | 理事会 オブザーバー | 全国診療放射線技師教育施設協議会 | 令和3年10月~令和5年3月 | Web | — | — |
| 教授 | 下瀬川正幸 | 役員選考委員会 委員 | 全国診療放射線技師教育施設協議会 | 令和4年8月~令和5年3月 | Web | — | — |
| 教授 | 下瀬川正幸 | 放射線部門責任者会議 メンバー | 一般社団法人群馬県診療放射線技師会 | 令和4年度 | Web | — | — |
| 教授 | 佐々木浩二 | 放射線治療品質管理委員会 外部委員 | 社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 | 令和4年度 | — | — | — |
| 教授 | 瀬川 篤記 | 診療(病理診断)の支援 | 医療法人社団 美心会 黒沢病院 | 令和4年4月~令和5年3月 | 黒沢病院(高崎) | 患者様 | のべ約80例 |
| 教授 | 大崎 洋充 | 核医学機器工学・放射生医薬品学 | 東京電子専門学校 | 令和4年4月11日~7月11日 | 東京電子専門学校 | 診療放射線学科学学生 | 約80名 |

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|-----|-------|------------------------------------|----------------|---------------------|-----------|------------|------|
| 教授 | 大崎 洋充 | 核医学検査技術学 | 東京電子専門学校 | 令和4年10月17日～12月19日 | 東京電子専門学校 | 診療放射線科学科学生 | 約80名 |
| 教授 | 大崎 洋充 | 冷陰極X線源を用いた医療診断画像撮影装置の研究 | 東京医科歯科大学 | 令和4年7月1日～令和5年3月31日 | 東京医科歯科大学 | — | — |
| 教授 | 大崎 洋充 | 核医学I | 東北大学 | 令和4年6月8日 | 東北大学 | 診療放射線学部学生 | 約35名 |
| 准教授 | 五十嵐 博 | 群馬県環境アトバイザー | 群馬県環境アトバイザー協会 | 令和4年度 | — | — | — |
| 准教授 | 川村 拓 | 桃の木リバーを愛する会：花壇苗植え | 桃の木リバーを愛する会 | 令和4年6月1日 | 桃の木川 | — | — |
| 准教授 | 川村 拓 | 桃の木リバーを愛する会：花壇苗植え | 桃の木リバーを愛する会 | 令和4年11月16日 | 桃の木川 | — | — |
| 准教授 | 川村 拓 | 桃の木リバーを愛する会：花壇および周囲草刈り等 | 桃の木リバーを愛する会 | 令和4年9月27日 | 桃の木川 | — | — |
| 准教授 | 杉野 雅人 | 社会福祉法人明正会外部評議員会 | 社会福祉法人明正会 | 令和4年6月22日、令和5年3月30日 | 社会福祉法人明正会 | 明正会外部評議員 | 9名 |
| 助教 | 丸山 星 | 診療放射線技師国家試験 模擬試験問題・解説の作成 (医用工学) | 株式会社シーイー・フォックス | 令和4年度 | — | — | — |
| 助教 | 丸山 星 | 診療放射線技師国家試験 模擬試験問題・解説の作成 (画像工学) | 株式会社シーイー・フォックス | 令和4年度 | — | — | — |

他教育機関非常勤講師
【看護学部】

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ(科目名等) | 主催 | 実施日時(期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|----|-------|--|---------------------|----------------------|-------------|----------------|-------|
| 教授 | 山下 暢子 | 地域完結型看護実習指導論 | 群馬大学大学院 | 令和4年8月18日 | 群馬大学大学院 | 博士前期課程院生、実習指導者 | 約50名 |
| 教授 | 山下 暢子 | 看護教育学 | 新潟県立看護大学大学院 | 令和4年10月4日から令和5年1月17日 | 新潟県立看護大学 | 博士前期課程院生 | 4名 |
| 教授 | 行田 智子 | 妊産期の助産診断技術学 | 高崎健康福祉大学大学院 | 令和4年4月1日～9月22日 | 高崎健康福祉大学大学院 | 助産専攻院生 | 5名 |
| 教授 | 狩野 太郎 | 本庄児玉看護専門学校非常勤講師(研究の基礎文献検索入門、研究方法論(1)調査・実験研究) | 本庄児玉看護専門学校 | 令和4年12月5日 | 本庄児玉看護専門学校 | 看護学生 | 40名 |
| 教授 | 狩野 太郎 | 東群馬看護専門学校非常勤講師(看護と情報科学) | 東群馬看護専門学校 | 令和4年4月12日～8月5日 | 東群馬看護専門学校 | 看護学生 | 70名 |
| 教授 | 狩野 太郎 | 群馬パース大学非常勤講師(老年看護方法論I) | 群馬パース大学 | 令和4年9月26日～令和5年1月16日 | 群馬パース大学 | 看護学生 | 100名 |
| 教授 | 石川 良樹 | 生化学 | 高崎健康福祉大学保健医療学部 | 平成4年4月14～6月9日 | 高崎健康福祉大学 | 看護学生 理学療法学生 | 約150名 |
| 教授 | 石川 良樹 | 人体の構造と機能I(生化学) | 渋川看護専門学校 | 平成4年4月11日～5月9日 | 渋川看護専門学校 | 看護専門学校生 | 40名 |
| 教授 | 石川 良樹 | 医学一般 | 育英短期大学現代コミュニケーション学部 | 平成4年4月12日～7月27日 | 育英短期大学 | 短期大学生 | 36名 |
| 教授 | 石川 良樹 | 薬事関連法規 | 育英短期大学現代コミュニケーション学部 | 平成4年9月28日～平成5年1月18日 | 育英短期大学 | 短期大学生 | 6名 |
| 教授 | 石川 良樹 | 医薬品とその作用 | 育英短期大学現代コミュニケーション学部 | 平成4年9月28日～平成5年1月18日 | 育英短期大学 | 短期大学生 | 25名 |

II-6. 他教育機関非常勤講師

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ (科目名等) | 主催 | 実施日時 (期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|-----|--------|---------------------------------------|--------------------|-------------------------|---------------|----------|------|
| 教授 | 廣瀬規代美 | 成人看護学各論Ⅱ [喉頭がん] | 渋川看護専門学校 | 令和4年5月9日 | 渋川看護専門学校 | 看護学生 | 31名 |
| 教授 | 高井ゆかり | 非常勤講師・「看護学研究概論」 | 群馬大学大学院 | 令和4年6月29日、 7月6日 | リモートでの講義 | 博士後期課程学生 | |
| 教授 | 大澤真奈美 | 産業保健 | 足利大学看護学部 | 令和4年9月～12月 | 足利大学看護学部 | 看護学生 | 約80名 |
| 教授 | 飯田 苗恵 | 認定看護師教育課程入試委員会 外部委員 | 高崎健康福祉大学看護実践開発センター | 令和4年度 | 高崎健康福祉大学 | - | |
| 准教授 | 鶴生川恵美子 | 医療英語 | 前橋東看護学校 | 平成4年4月28日～ 9月8日 | 前橋東看護学校 | 看護学生 | 32名 |
| 准教授 | 鶴生川恵美子 | 英語文学 | 育英短期大学 | 令和4年12月1日～ 令和5年1月19日 | 育英短期大学 | 大学生 | 2名 |
| 准教授 | 鶴生川恵美子 | 世界の言語と文化 | 育英短期大学 | 令和4年9月29日～ 令和5年1月19日 | 育英短期大学 | 大学生 | 約10名 |
| 准教授 | 鶴生川恵美子 | 放送大学・面接授業：「英米の児童文学で学ぶ基礎英語」 | 放送大学・群馬学習センター | 令和4年5月7日～8日 | 放送大学・群馬学習センター | 社会人 | 約10名 |
| 准教授 | 清水 裕子 | がん看護緩和ケア演習「がん看護専門看護師に求められる技術と能力」 | 群馬大学大学院保健学研究科 | 令和4年10月7日 | オンライン | 大学院生 | 2名 |
| 准教授 | 服部 美香 | 看護研究 | 深谷大里看護専門学校 | 令和4年4月～5月 | 深谷大里看護専門学校 | 看護学生 | 約40名 |
| 准教授 | 服部 美香 | 看護教育学 | 新潟県立看護大学大学院 | 令和4年10月～令和 5年1月 | オンライン | 大学院生 | 4名 |
| 准教授 | 上山 真美 | 老年看護学 | 群馬パース大学 | 令和4年10月～令和 5年1月 | 群馬パース大学 | 看護学生 | 約90名 |
| 講師 | 垣上 正裕 | 老化と発達の理解 | 群馬パース大学福祉専門学校 | 令和4年4月～5月 | 群馬パース大学福祉専門学校 | 福祉専門学校学生 | 40名 |
| 助教 | 田村 香奈 | 家族看護学 | 東群馬看護専門学校 | 令和4年11月1日～ 令和5年2月28日 | 東群馬看護専門学校 | 看護学生 | 70名 |
| 助教 | 鈴木 峰子 | 成人・老年看護学総論：「高齢者を介護する家族の状況と地域包括ケアシステム」 | 群馬大学医学部保健学科 | 令和4年7月28日 | 群馬大学 | 大学生 | 80名 |
| 教授 | 宮崎有紀子 | 疫学 | 群馬パース大学 | 令和4年4月～8月 | 群馬パース大学 | 看護学生 | 62名 |
| 教授 | 宮崎有紀子 | 疫学 | 高崎健康福祉大学保健医療学部 | 令和4年9月～2月 | 高崎健康福祉大学 | 看護学生 | 108名 |
| 教授 | 宮崎有紀子 | ウイメンズヘルスト論 | 群馬大学大学院保健学研究科 | 令和4年11月16日 | オンライン | 大学院生 | 約10名 |
| 教授 | 宮崎有紀子 | 保健統計学特論 | 群馬パース大学大学院 | 令和4年4月～7月 | 群馬パース大学 | 大学院生 | 2名 |

【診療放射線学部】

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ (科目名等) | 主催 | 実施日時 (期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|----|-------|---------------------------|---------------|---------------------|------------|------|------|
| 教授 | 下瀬川正幸 | 放射線学シミュレーション特論、放射線画像解析特論Ⅱ | 群馬大学大学院医学系研究科 | 令和4年度 | - | - | - |
| 教授 | 青木 武生 | 人体の構造と機能Ⅳ | 公立館林高等看護学院 | 令和4年4月28日～ 5月26日 | 公立館林高等看護学院 | 看護学生 | 約70名 |
| 教授 | 青木 武生 | 人体の構造と機能Ⅴ | 公立館林高等看護学院 | 令和4年6月2日～ 7月14日 | 公立館林高等看護学院 | 看護学生 | 約70名 |

| 職位 | 氏名 | 活動・テーマ (科目名等) | 主催 | 実施日時 (期間) | 実施場所 | 対象者 | 参加人数 |
|-----|-------|-------------------|---------------|-------------------------|-------------------|--------------------|------------|
| 教授 | 青木 武生 | 病理学総論 | 公立館林高等看護学院 | 令和4年9月11日～ 10月16日 | 公立館林高等看護学院 | 看護学生 | 約70名 |
| 教授 | 小倉 敏裕 | 「放射線検査」 | 前橋東看護学校 | 令和4年4月14日～ 令和4年6月16日 | 前橋東看護学校 | 看護学生 | 50名 |
| 教授 | 瀬川 篤記 | 臨床実習 | 群馬大学 | 令和4年6月～令和 4年11月 | 群馬大学医学部附 属病院 | 医学科学学生および 初期研修医 | のべ約 30名 |
| 教授 | 瀬川 篤記 | 講義 (疾病治療論 各論 I) | 群馬医療福祉大学 | 令和4年9月～令和 4年12月 | 群馬医療福祉大学 看護学部 | 看護学部生 | 86名 |
| 教授 | 林 則夫 | 非常勤講師：放射線画像技術特論 | 群馬大学大学院医学系研究科 | 2022年度 | | | |
| 教授 | 原 孝光 | 群馬大学腫瘍放射線学講座協力研究員 | 群馬大学 | 令和4年4月～令和 5年3月 | 群馬大学 | | |
| 教授 | 原 孝光 | 放射線管理計測学特論 | 群馬大学大学院医学系研究科 | 令和4年4月～令和 5年3月 | 群馬大学 | | |
| 教授 | 原 孝光 | 医療基礎生物学 | 群馬パース大学 | 令和4年4月～令和 4年8月 | 群馬パース大学 | | |
| 准教授 | 川村 拓 | 医用画像情報学実験 | 東京都立大学 | 令和4年4月1日～ 令和4年9月30日 | 東京都立大学ある いはWeb | 放射線学生 | 約40名 |
| 准教授 | 川村 拓 | 東京都立大学客員研究員 | 東京都立大学 | 令和4年度 | 東京都立大学 | - | - |
| 准教授 | 佐藤 哲大 | 看護と情報科学 | 東群馬看護専門学校 | 令和4年4月27日～ 7月6日 | 東群馬看護専門学校 | 看護学生 | 約80名 |
| 准教授 | 杉野 雅人 | 放射線安全管理特論 | 群馬大学大学院医学系研究科 | 令和4年4月1日～ 令和5年3月 | - | - | - |
| 准教授 | 長島 宏幸 | 人間工学 | 前橋高等看護学院 | 2022年9月1日～ 12月15日 | 前橋高等看護学院 | 看護学生 | 43名 |
| 助教 | 丸山 星 | 医療画像情報学 I | 群馬パース大学 | 令和4年4月～令和 4年8月 | 群馬パース大学 | 放射線科学学生 | 約80名 |
| 助教 | 丸山 星 | 放射線文献講読 I | 群馬パース大学 | 令和4年4月～令和 4年8月 | 群馬パース大学 | 放射線科学学生 | 2名 |
| 助教 | 丸山 星 | 医用画像処理工学 | 群馬パース大学 | 令和4年4月～令和 4年8月 | 群馬パース大学 | 臨床工学科学学生 | 約20名 |
| 助教 | 丸山 星 | 医療画像情報学 II | 群馬パース大学 | 令和4年10月～令和 5年2月 | 群馬パース大学 | 放射線科学学生 | 約80名 |
| 助教 | 丸山 星 | 放射線文献講読 II | 群馬パース大学 | 令和4年10月～令和 5年2月 | 群馬パース大学 | 放射線科学学生 | 1名 |
| 准教授 | 高橋 哲彦 | 客員研究員 | 東京都立産業技術大学院大学 | 令和4年度 | 東京・前橋 | - | - |

報道記事

【看護学部】

| 職位 | 氏名 | 報道機関 | 全国版・地方版 (番組名) | 掲載日時 | テーマ |
|----|-------|-------|---------------|----------|---------------------------------------|
| 講師 | 垣上 正裕 | 群馬テレビ | ニュースeve8 | 令和5年2月7日 | 企業のマネジメント層が考える働きがいのある職場 めぶくビジネススクール開催 |

【診療放射線学部】

| 職位 | 氏名 | 報道機関 | 全国版・地方版 (番組名) | 掲載日時 | テーマ |
|-----|-------|------|----------------------|-----------|--------------------|
| 准教授 | 五十嵐 博 | 上毛新聞 | 全国版・地方版 (番組名) 地方版 | 令和5年3月20日 | 『うっかりミス』防ごう 高齢者学習会 |

群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程

(設置)

第1条 この規程は、群馬県公立大学法人組織規程第7条の規定に基づき、群馬県立県民健康科学大学地域連携センター（以下「センター」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、県立の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果等を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民の保健、医療及び福祉の向上に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次のことに係る事業を実施するものとする。

- (1) 看護学教員養成課程に関すること
- (2) 看護師特定行為研修課程に関すること
- (3) 県立病院・県内病院等との連携に関すること
- (4) 看護職に対する研究支援に関すること
- (5) 放射線教育・研修に関すること
- (6) 放射線測定等に関すること
- (7) 教育普及に関すること
- (8) 地域との連携推進に関すること
- (9) 県と連携した健康福祉政策に関すること
- (10) 健康寿命延伸プロジェクトに関すること
- (11) その他前条の目的を達成するために必要なこと

(組織)

第4条 センターには、センター長及び副センター長を置く。

- 2 前条に定める事業を推進し、目的を達成するため、地域連携センター運営会議（以下「センター運営会議」という。）を設置する。
- 3 センター運営会議に、前条の事業を実施するため、地域連携センター運営委員会（以下「センター運営委員会」という。）を置く。
- 4 センター運営会議及びセンター運営委員会は、センター長が主宰する。
- 5 副センター長は、センター長を補佐する。

(協議及び報告)

第5条 センター長は、センター事業の運営方針や進捗状況等について、大学運営会議に協議及び報告するものとする。

(事務)

第6条 センター運営会議及び運営委員会の事務は、事務局教務係で処理する。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターの設置運営に関し必要な事項については、学長が別に定めるものとする。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

群馬県立県民健康科学大学地域連携センター運営会議及び 地域連携センター運営委員会設置運営細則

(趣旨)

第1条 この細則は、群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程第7条の規定に基づき、地域連携センター運営会議（以下「センター運営会議」という。）及び地域連携センター運営委員会（以下「センター運営委員会」という。）の組織及び運営等について必要な事項を定めるものとする。

(センター運営会議の組織)

第2条 センター運営会議は、次の構成員によって組織する。

- (1) 地域連携センター長（以下「センター長」という。）及び副センター長
- (2) 学部長
- (3) センター事業の担当者から互選により選ばれた責任者
- (4) 事務局長
- (5) 学外有識者
- (6) 県職員の内からセンター長が必要と認める者
- (7) その他センター長が必要と認める者

(センター運営会議委員の任期)

第3条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営会議の運営)

第4条 センター運営会議は、センター長が招集し、その議長となる。

- 2 センター長が出席できないときは、センター長が指名する者がその職務を代理する。
- 3 センター運営会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 センター運営会議の議事は、出席委員の過半数によりこれを決定し、可否同数のときは議長が決定する。

(センター運営会議の審議事項)

第5条 センター運営会議は、次の事項について審議する。

- (1) 地域連携センターの運営方針に関する事項
- (2) 地域連携センターの事業計画の策定及び評価に関する事項
- (3) 地域連携センターに係る規程の制定又は改廃に関する事項
- (4) その他センター長が必要と認める事項

(センター運営委員会の組織)

第6条 センター運営委員会は、次の構成員によって組織する。

- (1) センター長及び副センター長
- (2) 学部長
- (3) センター事業の担当者から互選により選ばれた責任者
- (4) その他センター長が必要と認める者

(センター運営委員会委員の任期)

第7条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営委員会の運営)

第8条 センター運営委員会は、センター長が招集し、その議長となる。

- 2 センター長が出席できないときは、センター長が指名する者がその職務を代理する。
- 3 センター運営委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 センター運営委員会の議事は、出席委員の過半数によりこれを決定し、可否同数のときは議長が決定する。

(センター運営委員会の審議事項)

第9条 センター運営委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 地域連携センターの運営及び事業の実施に関する事項
- (2) 地域連携センターの事業計画及び評価の検討に関する事項
- (3) 地域連携センターに係る規程の制定又は改廃の検討に関する事項
- (4) その他センター長が必要と認める事項

(委員以外の者の出席)

第10条 センター運営会議及びセンター運営委員会の議長は、会議の運営上必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

令和4年度地域貢献活動報告書

発行者 群馬県立県民健康科学大学
〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL 027-235-1211
FAX 027-235-2501
印刷所 朝日印刷工業株式会社

